

昭和 44 年度

地力保全基本調査成績書

〔斜里地域 斜里町〕

北海道立中央農業試験場

8

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。したがつてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和44年に行つた12地域、16市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和45年3月

北海道立中央農業試験場長

和田忠雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取りまとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）および水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壤第3科）による。
土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤肥料第1研究室の土性図を参照し、共同調査によつて取りまとめた。

本調査に従事した担当者は下記の通りである。

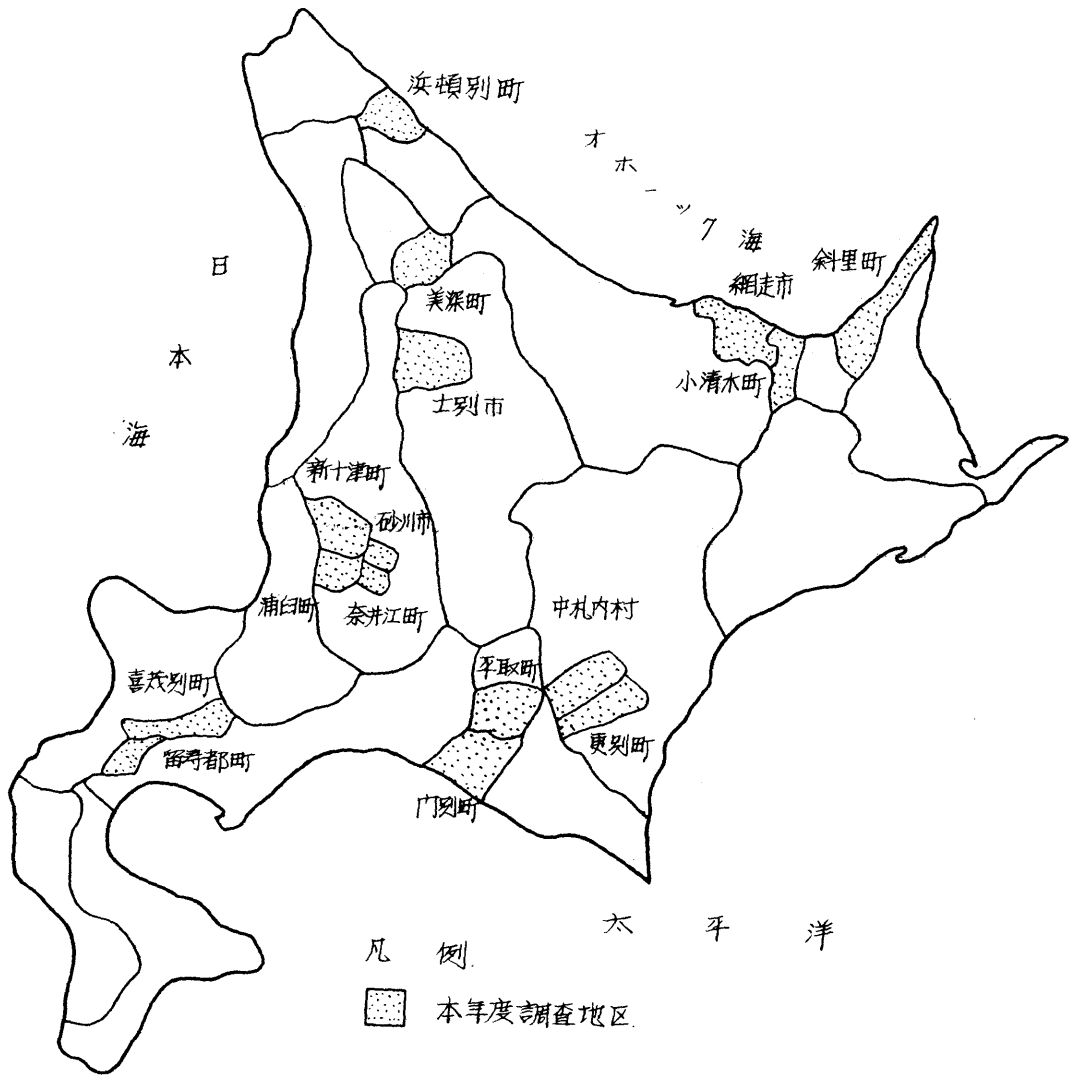
中央農試	化学部	部長	森	哲郎
	土壤改良科	科長	後藤	計二
	〃	第1係長	小林	荘司
	〃	研究職員	水元	秀彰
	〃	〃	伊東	輝行
	〃	〃	木村	清美
	〃	〃	松原	一実
	〃	第2係長	山口	正栄
	〃	研究職員	小林	茂
	〃	〃	小宮	脇思
十勝農試	土壤肥料科	〃	山本	晴雄
		〃	高橋	市十郎
		〃	上坂	晶司
上川農試	〃	〃	菊地	晃二
		〃	関谷	長昭
北見農試	〃	〃	横井	義雄
		〃	野崎	輝義
天北農試	〃	〃	土居	晃郎
		〃	秋山	喜三郎
			関	久雄

調査地域一覽

(ha)

調査地域名	該当郡市町村名	農地面積 (調査対象面積)		概調査面積		本年度調査面積	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
樺戸	新十津川町	4,949 ^{ha}	1,256 ^{ha}	— ^{ha}	— ^{ha}	4,949 ^{ha}	1,256 ^{ha}
石狩川下流	浦臼町	2,002	1,141	—	—	2,002	1,141
空知中部	奈井江町	2,216	492	—	—	2,216	492
"	砂川市	1,344	1,036	—	—	1,344	1,036
羊蹄山麓	留寿都町	60	2,675	—	—	—	2,675
"	喜茂別町	232	2,003	—	—	232	2,003
日高北部内陸	平取町	1,244	2,364	—	—	1,244	2,364
日高沿海	門別町	1,162	3,183	—	—	1,162	3,183
斜里	斜里町	2	9,900	—	—	—	9,900
"	小清水町	—	8,852	—	665	—	8,187
網走湖畔	網走市	87	13,794	—	3,000	—	10,794
士別	士別市	7,212	7,009	3,000	3,800	4,212	3,209
上川北部	美深町	1,016	4,535	—	409	1,016	4,126
日高山脈東山麓	更別町	—	9,180	—	—	—	9,180
"	中礼内村	—	6,428	—	—	—	6,428
頓別	浜頓別町	—	1,292	—	—	—	1,292

調査地区位置図



斜 里 地 域 斜 里 町

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 北海道斜里郡斜里町

(2) 調査面積 (ha)

郡市町村名	農地 総面積				調 査 対 象 面 積				過年度調	
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑
斜里郡斜里町	2	9,920	—	9,922	2	9,920	—	9,922	—	—

査面積 (41)	本 年 度 調 査 面 積				次年度以降調査計画面積				備 考
樹園地 計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	
— —	2	9,920	—	9,922	—	—	—	—	

2 気象

本地区は北見北東部のオホーツク海岸に沿って位置し、このため夏期はオホーツク海高気圧の影響を受けるため、しばしば冷害を受け、弱耐冷性の作物、特に豆類に被害が大きい。また本地区の気象の特徴として春季における強風による風害があり、これには降雨量が少ないこと、表土が軽微な火山性土でかつ土層中に未風化な火山砂礫層が存在し乾燥を助長していることが被害を大きくしている。本町の気象観測値をみると次の通りである。（※印は網走気象台の観測値）

項 目	月 別	4	5	6	7	8	9	10	11
	気 温 (℃)	平 均	4.4	9.6	13.9	18.7	20.2	16.3	10.4
最高平均		10.0	15.6	19.3	23.9	25.2	21.8	16.4	8.0
最低平均		— 1.2	3.6	8.4	13.4	15.1	10.8	4.4	— 2.0
降水量 (mm)	平 均	34	56	59	72	93	99	71	48
※湿 度 (%)		73	77	84	88	87	83	77	72
※風 速 (m/S)		4.6	4.3	3.1	2.7	2.9	3.7	4.1	4.6
※日照時数 (時)		196.7	191.1	198.6	191.7	199.7	178.6	179.2	133.9

3) 土地条件

(1) 地形

本町の南部に斜里岳がそびえ、その山麓には広大な台地、低地、が分布し、海岸砂丘をへてオホーツク海に接している。また東部は知床山地で海岸に沿って段丘が分布している。

2) 地質

斜里岳山麓の波状台地や西部の台地、及び東部の丘陵地に接する台地は後述する火山灰の累積する火山性土壌で、一部に安山岩や三紀の砂岩等を混在するところがある。そして台地を解所している河川流域は河成沖積土壌と泥炭土壌でいづれも薄層の火山性土壌が数枚被覆している。また海岸

に沿って細長く海砂を母材とする砂丘土壤も存在する。

本町に推積する火山灰層は表層から概ね次のような層序である。表層は旭岳火山灰層(A s) 雌阿寒岳火山灰 a 層(M e-a) 次いでカムイヌプリ岳火山灰 1 a ~4 a 層(K m-1 a ~4 a)、カムイヌプリ岳火山灰 5 a 層(K m-5 a)、カムイヌプリ岳火山灰 C 層 D 層と思われるもの(K m-C、D?)、摩周岳火山灰 f 層(M-f)、そして斜里岳を噴出源とすると考えられている褐色火山灰層と赤褐色火山灰層である。これらの火山灰層は全般的に北東に向かつて層厚を感じ、かつ粒径も小さくなる。この中で農業的に問題となるのは K m-5 a で本町においては厚いところで 20 cm 前後、平均 10 cm の厚さでしかも作土直下に K m-5 a の浮石砂礫層が存在するため作物根の伸長が悪く、毛管水の移動が妨げられ乾燥を助長し、春季の強風による風害を大きくしている。M e-a は本町においては概ね 5 cm 前後の厚さで地表に降灰しており植生に良い影響を与えている。

(3) 侵蝕状況

本町においては東部の丘陵地に近いところや糸里岳山麓の波状性台地などでは水触を受けやすい。また春季の風触はほとんど全町的に大きな被害を受けている。

(4) 交通状況

国鉄では釧網線、及び根北線(越川まで)が通じており、一般国道、主要道々も整備されている。また、近年知味が観光地として脚光をあびてきたため斜里、宇登呂間の道路も改良工事が進められており交通は便利になってきている。

4) 土地利用及び営農状況

a) 経営面積(1戸あたり平均 ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他

b) 作付面積(ha)と収量(ug/ha)

作物	豆類	馬鈴薯	てん菜	にんじん	小麦	デントコーン	えん麦	牧草
面積	1,598	2,720	2,620	160	233	357	348	571
収量	—	3,160	3,510	2,290	305	4,930	296	—

c) 家畜の種類及び頭数(総数)

	乳牛	肉牛	馬	豚	めん羊	にわとり
飼育戸数	219	82	770	51	39	413
飼育頭数	1,644	330	892	291	54	11,696
1戸あたり飼育頭数	7.5	4.0	1.2	5.7	1.4	28.3

d) 労働の関係(1戸あたり人数)

家族人員	労働換算	季節雇	臨時雇
5.5	3.0	0.67	3.9

本町の農業形態は畑作専業と酪農及び混同経営とに大別されるが畑作専業農家が圧倒的に多い、経営規模は概して中程度であり、経営状態追好な農家が多い。作物はてん菜、馬鈴薯の根菜類が多く、近年にんじんの作付も増加気味である。本町の土壤は地力の低下しやすい火山性土壤と泥炭土壤の占める割合が大きく、地力の維持・増進に指導機関と農家は大いに努力している現状である。

2 土壤類型区分及び説明

1 土壤統一覧及び土壤区一覧

(1) 土壤統一覧

土壤統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫層、礫を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材、堆積様式
					表土	次層	
来 運	YR/YR	表層腐植層なし	あり	なし	壤質	砂質	非固結火成岩・風積
三 井	〃	(埋没土層)	〃	〃	〃	〃	〃 〃
三井北	〃	表層多腐植層	なし	〃	〃	壤質	〃 〃
朱 円 南	〃	表層腐植層なし	あり	〃	〃	〃	〃 〃
朱 円 東	〃	表層腐植層	〃	〃	〃	〃	〃 〃
秋 の 川	〃	〃	〃	〃	〃	砂質	〃 〃
日 の 出	〃	〃	〃	〃	〃	壤質	〃 〃
越川中央	〃	〃	〃	〃	〃	砂質	〃 〃
萱 野	〃	表層腐植層なし	〃	〃	〃	壤質	〃 〃
岩尾別	〃	表層腐植層	〃	〃	〃	〃	〃 〃
ウトロ	〃	〃	〃	あり	〃	〃	〃 〃
朱円中央	〃	〃	〃	なし	〃	〃	〃 〃/水積
豊 里	〃	〃	なし	なし	〃	〃	非固結火成岩〃/〃
越 川	〃	〃	あり	〃	〃	〃	〃 半固結水成岩〃/〃
羅 萌	〃	〃	〃	あり	壤質	砂質	非固結火成岩〃/〃
浜小清水	〃	〃	〃	なし	砂質	〃	〃 非固結水成岩〃/風積
以久科	〃	表層腐植層なし	なし	あり	壤質	壤質	半固結水成岩(水積)
朱 円	〃	表層腐植層	あり	なし	〃	〃	〃 〃
川 上	〃	表層腐植層なし	〃	あり	〃	〃	〃 〃
美 咲	YR/Y	表層腐植層	〃	〃	粘質	〃	非固結火成岩(水積)
豊 倉	YB/YR	表層腐植層なし	〃	〃	強粘質	粘質	〃 半固結水成岩 〃
朱 円 西	〃	表層腐植層	なし	〃	粘質	壤質	半固結水成岩(水積)
真 鯉	〃	〃	あり	なし	強粘質	礫質	固結火成岩、半固結水成岩、水積(扇堆)
斜 里	〃	全層多腐植層	〃	〃	壤質	泥炭	ヨシノキ等 集積
大 栄	〃	表層多腐植層	〃	あり	〃	〃	〃 〃
中斜里	〃	全層多腐植層	〃	なし	〃	〃	スマガヤミズゴケ等〃

(2) 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式	畑面積(ha)	備考(農牧適地面積ha)
来 運	III fne IItd(w)is	1988.8	4062.5
三 井	III n IItd(w)fe	112.4	250.0
三 井 北	II wn	93.1	156.2
朱 円 南	III ne IItd(w)f	737.5	1093.7

朱 円 東	III e	II d (w) n	267.5	468.7
秋 の 川	III n	II d (w) f e	189.5	343.7
日 の 出		II t d (w) f n e	501.3	937.5
越 川 中 央		II t d (w) n e	93.0	175.0
萱 野	III e	II t (w) f n	347.5	593.7
岩 尾 別	III n	II t d (w) f s	528.8	1062.5
ウ ト ロ		II d n s	394.4	781.2
朱 内 中 央		II t d n e	120.2	147.0
豊 里		II t d (w) n e	15.7	26.7
越 川		II t d g f n	85.0	137.5
羅 崩	III n	II t d w f n a	90.8 (内水田 0.6)	125.5
浜 小 清 水	III w f n	II e	105.0	1000.0
以 久 科		I	523.5	562.1
朱 円		II d (w)	170.6	281.2
川 上		II t d f n	251.2	343.7
美 咲	III d	II t w i a	552.5 (内水田 0.4)	781.2
豊 倉		II t p w n a	395.6 (内水田 0.3)	531.2
朱 円 西		II t w f	212.5	281.2
真 鯉	III d i	II t g p n	19.0	46.5
斜 里	III w n	II f a	2071.9 (内水田 0.7)	3406.2
大 栄	III w	II f n a	21.3	27.2
中 針 里	III w f	II t n a	33.4	61.2

2 土壌統別説明

来 運 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16cm前後で腐植含量5%内外、土性はSIが主である。色は10YRで明度3、彩度2。発達弱度の細粒状構造である。ち密度15前後で疎、pH(H₂O)6.5~7.0。下層との境界は平坦明瞭である。(Me-a, Km-5aなどの混合層)

第2層は厚さ16cm前後で腐植を欠き、土性はSが主である。色は2.5Yで明度8、彩度3、浮石の小礫に富む。構造は単粒状を呈し、ち密度は12前後で疎、pH(H₂O)6.5~7.0。下層との境界は平坦明瞭である。(Km-5a)

第3層は厚さ10cm前後で腐植含量4%内外、土性はSLが主である。色は10YRで明度4、彩度3。発達中程度の粒状構造で細小孔含む。ち密度15前後で疎、pH(H₂O)7前後。下層との境界は平坦明瞭である。(Km-c, d?)

第4層は厚さ35cm前後で腐植含量3%内外、土性はSが主である。色は10YRで明度5、彩度6。浮石・熔岩の小礫含む。構造は単粒状を呈する。ち密度18で疎。PH(H₂O)6.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。(M-f)

第5層は厚さ13cm前後で腐植含量2%内外、土性はSが主である。色は10YRで明度5、彩度4。発達中度の粒状構造で細・小孔含む。ち密度24~25で中~密。PH(H₂O)6.5前後。下層との境界は波状漸変である。(褐色火山灰)

第6層は厚さ13cm前後で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YRで明度5、彩度4。発達中度の粒状構造で細小孔含む。ち密度26~28で密。PH(H₂O)6.5前後。下層との境界は波状判然である。(褐色火山灰)

第7層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YRで明度4、彩度6。発達中度の粒状構造で細小孔富む。ち密度25前後で密。PH(H₂O)6前後。下層との境界は平坦明瞭である。(褐色火山灰)

第8層は地表下概ね124cm以下で赤褐色の浮石の小中礫よりなる礫層。(赤褐色火山灰)

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町向陽 試坑No. 清14

第1層	0~16cm	腐植含む黒褐(10YR ³ / ₂)のSL、発達弱度の細粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.7、調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第2層	16~32cm	腐植欠く淡黄(2.5Y ⁸ / ₃)のS。浮石の小礫富む。単粒状、ち密度12で疎。PH(H ₂ O)6.8。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第3層	32~42cm	腐植含むにぶい黄褐(10YR ⁴ / ₃)のSL、発達中度の粒状構造、細小孔含む。ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.9。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第4層	42~77cm	腐植含む黄褐(10YR ⁵ / ₆)のS、浮石、熔岩片の小礫富む。単粒状、ち密度18で疎、PH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭。
第5層	77~90cm	腐植含むにぶい黄褐(10YR ⁵ / ₄)のS。中度の粒状構造で細小孔含む。ち密度25で密、PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り乾、層界波状漸変。
第6層	90~102cm	腐植欠くにぶい黄褐(10YR ⁵ / ₄)のSL、中度の粒状構造で細小孔含む。ち密度26で密、PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭。
第7層	102~124cm	腐植欠くにぶい黄褐(10YR ⁶ / ₄)のL、中度の粒状構造で細小孔富む。ち密度25で密、PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭。
第8層	124cm以下	赤褐色の浮石の小~中礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	2.7		41.8	28.9	25.1	4.1	SL	1.08		2.73	0.25	1.1	4.7
2	16~32	0.7		93.5	0.6	5.1	0.8	S	8.0		0.41	0.04		0.7
3	32~42	6.1		19.5	55.2	24.3	1.0	SL	1.00		2.26	0.06	1.4	3.9
4	42~77	7.2		52.8	38.8	8.3	0.1	S	9.8		1.74	0.14	1.2	3.0
5	77~90	9.9		31.4	53.2	8.8	0.4	S	1.02		1.33	0.13	1.0	2.3
6	90~102	8.0		28.7	53.8	16.9	0.5	SL	1.09		0.58	0.07		1.0
7	102~124	10.3		23.8	35.6	28.8	11.8	L	—					0.6

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	6.7	5.8	0	16.0	10.62	0.37	0.08		6.6	710	Tr
2	6.8	5.9	0	2.2	0.66	0.22	0.03		3.0	988	2.1
3	6.9	5.9	0.3	17.6	12.09	0.37	0.07		6.9	1707	Tr
4	6.6	5.8	0.3	16.7	6.04	0.27	0.05		3.6	2503	"
5	6.5	5.6	0.3	19.6	3.96	0.44	0.10		2.0	2350	"
6	6.4	5.2	0.4	19.6	3.52	0.44	0.14		1.8	1800	"
7	6.2	4.6	1.3	24.3	8.35	2.21	0.40		3.4	1202	"

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては三井統、朱円南統、朱円東統、秋の川統があるがいずれもK m-5 aが薄いかあるいは出現しないので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(火山灰、火山礫)

A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地形 斜里岳山麓の緩斜面

C 気候 年平均気温6.2℃ 年降水量733mm

D 植生及び利用状況

概ね畑地でてん菜、馬鈴薯、麦類、牧草等が栽培されているが一部、未耕地となつている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、磷酸増施、塩基の補給、侵蝕防止、混層耕

F 分布 北海道斜里郡斜里町来運豊里の大部分、富士の一部。

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
来 運 - 来 運	III fne II td(w) is

② 土壌区別説明

来 運 統 - 来 運 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効 土	耘 表 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置 有 微 酸	有 物 增 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土 土	の 土 土	の 風 乾	層 換 〃 〃 効	害 理 冠 す	害 水 冠 す	斜 為	水 風
産 土 土	の 土 土	の 乾 粘 土	の 性 態 量	害 物 的 害 水 冠 す	害 水 冠 す	然 為	水 風
力 的 層	の 土 土	の 粘 土 乾	石 苦 加 磷	質 障 害 危 險	質 障 害 危 險	の 傾 方	水 風
可 能 性	の 深 含	乾 沃 基 状	豊 灰 土 里 酸 要	の 害 有 無 性	の 害 有 無 性	傾 方 傾	水 風
厚 性 等 級	さ 量 易	性 性 性 度 度	量 〃 〃 〃 素 度	性 性 性 性 性	性 性 性 性 性	斜 向 斜 向	度 性 性
	t d g p	w	f n	i a	s e		
Ⅲ Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ (2)	(Ⅲ) 1 2 (2)	Ⅲ 3 2 1	Ⅲ 1 3 3 3 1 1	Ⅱ 1 2	Ⅰ 1 1	Ⅱ 2 — —	Ⅲ 2 2 3
簡 略 分 級 式 Ⅲ f n e Ⅱ t d (w) i s							

A 土壤区の特徴

この土壤区は来運統に属する。表土の厚さは15～20cmで中庸、有効土層は概ね80cm前後で中庸である。表土の土性は中粒質で耕起・砕土は容易である。

火山性砂礫層を挟在し、一時的に過乾のおそれがある。

保肥力小、固定力小、塩基状態中庸もしくは良好であるが自然肥沃度は低い。養肥分では石灰以外はどれも少ない。除去やや困難な物理的障害あり。

春季強風のため風蝕を受けるおそれが多く、また緩傾斜のため水蝕のおそれもある。

B 植生及び利用状況

概ね畑地でてん菜、馬鈴薯、麦類、牧草等が栽培されているが一部未耕地となっている。

C 地力保全上の問題点

腐植が少ないので有機物を施用すること、有効態の磷酸や、苦土、加里等養分に乏しいのでこれらの肥料を増施することが大切である。また、次層が砂礫層で根群の伸長に障害となるので混層耕を実施することが望ましい。その場合下層土は磷酸に極めて乏しいから充分留意する必要がある。また風水蝕防止策として防風林の整備、被覆作物の栽培等に努めること。

D 分布 北海道斜里郡来運豊里の大部分と富士の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和45年3月31日

三 井 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～30cmで腐植含量5%内外、土性はSLを主とする。色は7.5～10YRで明度2～3、彩度2～3、発達弱度の細粒状構造でち密度15前後で疎である。PH(H₂O)6前後、下層との境界は平坦明瞭。(Me-a、Km-5aなどの混合層)

第2層は厚さ5～10cmで腐植を欠き、土性はSを主とする。浮石の小礫に富む。色は10YRで明度6～7、彩度2～4、構造は単粒状を呈する。ち密度10前後で極疎、PH(H₂O)6～7。下層との境界は平坦明瞭。(Km-5a)

第3層は厚さ10～15cmで腐植含量10%内外、土性はL～CLを主とする。褐色の腐朽小浮石わづかに含む。色は10YRで明度2～3、彩度1～2。発達中度の粒状構造で細孔含む。ち密度15前後で疎である。下層との境界は平坦明瞭。(Km-c、d?)

第4層は厚さ20cm前後で腐植含量15%内外、土性はLを主とする(触感)。褐色の腐朽小浮石わづかに含む。色は10YRで明度1～2、彩度1～2。発達弱度の塊状構造で細小孔含む。ち密度17前後で疎。下層との境界は平坦明瞭。(M-f₁)

第5層は厚さ15cm前後で腐植を欠き土性はSLを主とし(触感)、浮石の小礫に富む。色は10YRで明度3～5、彩度4～6、発達弱度の塊状構造。ち密度18前後で疎。下層との境界は平坦で明瞭である。(M-f₁)

第6層は厚さ30～35cmで腐植を欠き、土性はSである。浮石礫を含む。色は2.5Yで明度5～6、彩度1。単粒状を呈する。ち密度27前後で密、下層との境界は平坦明瞭である。(M-f₃)

第7層は概ね110cm以下で腐植を欠き、土性はLを主とする。色は10YRで明度5～6、彩度6。発達中度の塊状構造でち密度25前後で密である。(褐色火山灰)

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町豊里 試坑No.19

第1層	0～25cm	腐植含む黒褐(7.5YR 3/2)のSL、弱度の細粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭
第2層	25～29	腐植欠くにぶい黄燈(10YR 7/4)のS、浮石の小礫富む、単粒状、ち密度10で極疎、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭
第3層	29～42	腐植含む黒褐(10YR 3/1)のL、中度の粒状構造、細小孔含む。ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.2。調査時の湿り半乾、層界平坦明瞭
第4層	42～62	腐植頗る富む黒(10YR 1/1)のL(触感)。弱度の塊状構造。細小孔含む。ち密度17で疎、調査時の湿り半乾、層界平坦明瞭
第5層	62～77	腐植欠く褐(10YR 4/4)のSL(触感)、浮石小礫富む。極めて弱度の塊状構造、ち密度18で疎、調査時の湿り半乾、層界平坦明瞭
第6層	77～110	腐植欠く黄灰(2.5Y 5/1)のS(触感)浮石小礫含む。単粒状、ち密度27で密、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭
第7層	110～	腐植欠く黄褐(10YR 5/6)のL(触感)、中度の塊状構造、ち密度25で密、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	3.1		49.7	25.9	20.7	3.7	S L		2.41	3.30	0.38	8.7	3.8
2	29~42	7.4		21.5	34.3	39.3	4.9	L		2.42	5.50	0.57	9.0	8.8

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.0	0.8	19.6	8.4	0.4	0.1	43	855	4.8
2	6.2	5.3	0.5	37.3	18.3	0.4	0.1	49	1835	0.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては来運統、羅蒨統、豊里統、三井北統があるが、来運統はkm-5aが厚く、羅蒨統、豊里統は堆積様式が異なり、三井北統は腐植の量及び腐植層深いので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(火山灰、火山礫)

A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地形 斜里岳山麓緩斜面の凹状地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量733mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地でてん菜、馬鈴薯、麦類、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、塩基の補給、磷酸増施、混層耕、侵蝕防止

F 分布 北海道斜里郡斜里町来運、豊里、富士の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
三 井 一 三 井	III _n II ₁ d(w)fe

② 土壌区別説明

三 井 統 一 三 井 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効 土	転 表 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置 有 微 酸	有 物 增 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土 土	の 土 土 土	の 風 乾 粘 土 着 硬	肥 定 塩 基 状	の 性 態 量 害 物 的 害 質 障 有 害 無 性	害 水 冠 す べ り の の 危 險 度 度	斜 為 傾 方 傾	水 風 蝕 蝕 蝕 蝕
産 力 可 能 性 等 級	の 層 磔 含 深 さ	の 水 水 潤 乾 湿	沃 基 状 力 力 態 度	石 苦 加 磷 灰 土 里 酸 要 含 " " " 素 度 性	害 物 的 害 質 障 有 害 無 性	斜 為 傾 方 傾	水 風 蝕 蝕 蝕 蝕
	t d g p	w	f	n	i a	s e	
	Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ 1 1 (2)	(Ⅱ) 1 3 (2)	Ⅱ 2 2 2	Ⅲ 1 3 3 2 1 2	Ⅰ 1 1 Ⅰ 1 1	Ⅰ 1 - -	Ⅱ 2 2 2
簡 略 分 級 式		Ⅱ n Ⅰ t d w f e					

A 土壤区の特徴

この土壤区は三井統に属する。表土の厚さは25cm前後で中庸で有効土層は概ね80cmで中庸である。表土の土性は中粒質で耕起砕土は容易である。

火山性の砂礫層を挟在し、一時的に過乾となるおそれがある。

施肥力中、固定力小塩基状態中庸で自然肥沃度は中位である。養分については石灰が多いが苦土・加里が少なく、有効態の磷は中庸である。障害性災害性はない。春季強風により風蝕を受けるおそれがある。

B 植生及び利用状況

概ね畑地でてん菜、馬鈴薯、麦類、豆類、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

腐植が一般に少ないので推肥等有機物を施用すること。加里、苦土の塩基類に不足しており、また磷も少なめなのでこれらの肥料を増施する必要がある。次層に浮土層が存在しているので混層耕を実施することが望ましく、その場合は磷酸を増やすこと。

風蝕防止策として、防風林を整備し、被覆作物を栽培することが望ましい。

D 分布 北海道斜里郡斜里町、来運、豊里、富士の一部

記載責任者 官 勝 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和45年3月31日

三 井 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量10%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度1、発達弱度の細粒状構造、ち密度18前後で疎、PH(H₂O)6.6、下層との境界は平坦判然である。(AS、Me-a、km-5a等)

第2層は厚さ30cm前後で腐植含量13~15%、土性はLを主とする。浮石の小礫を含む。色は10YRで明度1、彩度1。発達弱度の細粒状構造、ち密度18前後で疎。PH(H₂O)6.2、下層との境界は平坦明瞭である。(M-f)

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はSLを主とする。浮石の小礫に富む。色は2.5Yで明度2~3、彩度3~4、発達極めて弱度の塊状構造もしくは単粒状、ち密度17前後で疎、PH(H₂O)6.3。下層との境界は平坦明瞭である。(M-f)

第4層は厚さ25cm前後で腐植含量10%内外、土性はSiLを主とする。色は10YRで明度1~2、彩度1。発達弱度の細塊状構造で細小孔に富む。ち密度16前後で疎、PH(H₂O)6.4。下層との境界は平坦明瞭である。(褐色火山灰)

第5層は厚さ10cm前後で腐植含量2%内外、土性はSiLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度3~4。発達弱度の塊状構造で細小孔に富む。ち密度16前後で疎、PH(H₂O)6.5、下層との境界は平坦明瞭である。(褐色火山灰)

第6層は厚さ10cm前後で腐植を欠き、土性はL(触感)を主とする。色は10YR~2.5Yで明度4~5、彩度3~4、発達弱度の塊状構造で細小孔に富む。ち密度20前後で中。下層との境界は平坦明瞭である。(褐色火山灰)

第7層は概ね120cm以下で水分を含んだ腐朽浮石礫よりなる礫層である。色は7.5~10YRで明度4~7、彩度4~6(赤褐色火山灰)

代表的断面形態

(所在地)斜里郡斜里町以久科南 試坑No.54

第1層	0~25cm	腐植頗る富む黒(10YR2/1)のSL。弱度の細粒状構造、ち密度18で疎。PH(H ₂ O)6.6。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	25~55	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のL。浮石の小礫含む。弱度の細粒状構造、ち密度18で疎、PH(H ₂ O)6.2。調査時の湿り半乾~半湿。層界平坦明瞭
第3層	55~75	腐植欠く暗オリーブ褐(2.5Y3/3)のSL浮石小礫に富む。単粒状、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)6.3。調査時の湿り半湿、層界平坦明瞭
第4層	75~100	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のSiL、弱度の細塊状構造。細小孔富む、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)6.4。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。
第5層	100~110	腐植含むにぶい黄褐(10YR4/3)のSiL。弱度の塊状構造、細小孔富む、ち密度16で疎。PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り湿、層界平坦判然。
第6層	110~120	腐植欠くオリーブ褐(2.5Y4/3)のL、(触感)、弱度の塊状構造、細小孔富む、ち密度20で中、調査時の湿り湿、層界平坦明瞭
第7層	120cm以下	褐(7.5YR4/6)~にぶい黄橙(10YR7/4)の腐朽浮石礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	4.3		54.6	22.6	16.9	5.9	SL	114	2.48	5.36	0.38	14.0	9.2
2	25~55	8.2		20.9	33.7	39.7	5.7	L	114	2.41	7.72	0.56	13.8	13.3
3	55~75	2.8		50.4	28.7	18.4	2.5	SL	124	2.50	—	—	—	—
4	75~100	6.2		13.3	26.9	46.1	13.7	SiL	110	2.55	5.22	0.57	9.2	9.0
5	100~110	5.8		10.6	29.7	52.2	7.5	SiL		2.72	1.13	0.41	2.8	1.8

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	K C L			C a O	M g O	K ₂ O			
1	6.6	6.0	0.1	30.3	22.6	0.3	0.4	75	1045	7.2
2	6.2	5.1	0.3	51.1	24.8	0.3	0.1	49	1918	0.6
3	6.3	5.5	0.3	11.3	3.6	0.3	0.1	32	826	0.4
4	6.4	5.4	0.3	45.1	28.1	4.6	0.4	62	1541	0.3
5	6.5	5.4	0.3	25.3	12.1	0.6	0.6	48	1240	0.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては来運統、秋の川統、以久科統、斜里統があるが、来運統、秋の川統とは乾湿が異なり、以久科統、斜里統とは堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰、火山礫）

A-4 堆積様式 風積（火山性）

B 地形 平坦な低い台地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地で麦類、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

排水完備、塩基の補給

F 分布 北海道斜里郡斜里町以久科南、三井の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土 壤 区 一 覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
三井北一三井北	IIw n

② 土 壤 区 別 説 明

三井北統一三井北区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効 土	耘 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	增 地
生 土	土 土	の 風 乾	肥 肥 定 塩	層 換	の 性 態 量	害 理 冠	自 傾 人
産 土	の 土 土	の 水 水 潤	の 肥 定 塩	の 性 態 量	害 理 冠	害 物 的 害	斜 為
力 の 層	の 粘 土	の 乾 乾	沃 基 状	石 苦 加 磷	質 障 害	の 危 險	然 為
可 能 性	厚 深 含	難 土 着 硬	力 力 態	灰 土 里 酸 要	の 害 有 無	の 危 險	傾 方 傾
等 級	さ さ 量	性 性 さ	度 度	含 量 素 度	性 性	度 度	斜 向 斜
	t d g p	w	f	n	i	a	s e
II	I I I I I 1(2)	II 1 2 2	I 1 2 1	II 1 3 2 2 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1 1
簡 略 分 級 式		II w n					

A 土壤区の特徴

この土壤区は三井北統に属する。表土の厚さは50cm以上で深く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起碎土は容易である。台地の末端部で泥炭地と接しているためか湿地を呈しており、一時的に過湿となるおそれがある。

保肥力大、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は高い。養肥分では石灰多く苦土少、加里と磷酸は中庸である。障害性、災害性はなく、侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 概ね畑地で、麦類、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地形の関係で湿地を呈しているため排水を完全にすることが先決である。

養肥分では苦土に乏しく、加里、磷酸も少なめなのでこれらを増肥することが必要である。

D 分布 北海道斜里郡斜里町以久科南、三井の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和45年3月31日

朱 円 南 統

(I) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量5%内外、土性はLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~4、発達弱度の細粒状構造、ち密度15前後で疎である。PH(H₂O)6前後、下層との境界は平坦で判然である。(Me-a、km-5a等)

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量概ね2%以下、土性はLを主とする。色はYRで明度4~6、彩度6、発達弱度の細粒~粒状構造、ち密度22前後で中である。PH(H₂O)6前後、下層との境界は平坦で判然である。(バフ状)

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はCLを主とする。色は10YRで明度4～5、彩度6、発達弱度～中度の細粒状構造と一部塊状構造、ち密度22前後で中である。PH(H₂O)6前後、下層との境界は平坦漸変である。(褐色火山灰)

第4層は厚さ10cm前後で腐植を欠き、土性はCL(触感)を主とする。色は10YRで明度5～6、彩度4、発達強度の細粒状構造と塊状構造、細小孔含む。ち密度27前後で密である。下層との境界は平坦明瞭である。(褐色火山灰)

第5層は厚さ40cm前後で上部20cmは色5YRで明度4～5、彩度8、下部20cmは色7.5YRで明度5～6、彩度8のともに岩片の小礫を多く混入する小浮石礫層で下部に礫が大きい。下層との境界は平坦明瞭である。(赤褐色火山灰)

第6層は概ね105cm以下で腐植を欠き、土性はL(触感)を主とする。色は10YRで明度5～6、彩度4～6、発達弱度の塊状構造を呈する。

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町下越川 試坑No.2B

層位	cm	腐植含む暗褐(10YR3/3~4)のL、弱度の細粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り乾、層界平坦判然。
第1層	0~25	
第2層	25~40	腐植欠く黄褐(10YR5/6)のL、弱度の粒状構造、ち密度22で中、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り乾、層界平坦判然。
第3層	40~55	腐植欠く黄褐(10YR4.5/6)のCL、弱度および一部中度の細粒状構造、ち密度22で中、PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、層界平坦漸変
第4層	55~65	腐植欠くにぶい黄褐(10YR5/4)のCL(触感)、中度～強度の細粒状構造、細小孔含む。ち密度27で密、調査時の湿り半乾、層界平坦明瞭
第5層	65~80	明褐(5YR4/8)の小浮石礫層、岩片礫に富む、層界漸変
第6層	80~105	明褐(7.5YR5/8)の小浮石礫層、岩片礫に富む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	6.9		42.6	21.2	31.3	4.9	L	101	2.63	2.52	0.28	9.0	4.0
2	25~40	10.0		20.7	23.8	44.0	11.5	L	97	2.78	1.72	0.24	7.2	3.0
3	40~55	12.2		19.2	20.2	42.8	17.8	CL	94	2.91	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.8	0.3	22.1	9.7	0.4	0.2	44	1240	0.8
2	6.1	5.5	0.4	23.5	8.5	0.3	0.1	36	1983	0.8
3	6.2	5.8	0.3	18.6	8.5	0.3	0.1	46	1886	0.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する土壌統としては朱円東統、日の出等があるが朱円東統は地形が平坦であり、日の出統は粗粒火山灰層(km-5a)がさらに薄層化し、かつ石礫の転石が出現するので区別される。

A-3、母材 非固結火成岩（火山灰、火山礫）

A-4、堆積様式 風積（火山性）

B、地形 緩波状性台地

C、気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D、植生及び利用状況 概ね畑地で馬鈴薯、てん菜、麦類が栽培されている。

E、農業上の留意事項

有機物施用、塩基の補給、磷酸増肥、風蝕防止

F、分布 北海道斜里郡斜里町越川、朱円東の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
朱円南一朱円南	III n e II t d (w) f

② 土壌区別説明

朱円南統一朱円南区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効 土 転 表 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置 有 微 酸	有 物 增 地	自 傾 人	侵 耐 耐	
生 土 土 土 土 土	の 風 乾 粘 土 着 硬	層 換 〃 〃 効	性 態 量 害 物 的 害 水 冠 す	害 理 冠 す	斜 然 為	水 風	
産 土 土 土 土 土	の 乾 粘 土 着 硬	肥 の の 性 態 量	害 物 的 害 水 冠 す	害 理 冠 す	斜 然 為	水 風	
力 の 層 礫 の 厚 深 等 級	の 乾 粘 土 着 硬	肥 の の 性 態 量	害 物 的 害 水 冠 す	害 理 冠 す	斜 然 為	水 風	
可 能 性 等 級	の 乾 粘 土 着 硬	肥 の の 性 態 量	害 物 的 害 水 冠 す	害 理 冠 す	斜 然 為	水 風	
厚 深 等 級	の 乾 粘 土 着 硬	肥 の の 性 態 量	害 物 的 害 水 冠 す	害 理 冠 す	斜 然 為	水 風	
性 等 級	の 乾 粘 土 着 硬	肥 の の 性 態 量	害 物 的 害 水 冠 す	害 理 冠 す	斜 然 為	水 風	
等 級	の 乾 粘 土 着 硬	肥 の の 性 態 量	害 物 的 害 水 冠 す	害 理 冠 す	斜 然 為	水 風	
級	の 乾 粘 土 着 硬	肥 の の 性 態 量	害 物 的 害 水 冠 す	害 理 冠 す	斜 然 為	水 風	
t d g p	w	f	n	i	a	s	e
III II II I I 1 1 (2)	III 1 2 (2)	II 2 2 2	III 1 3 3 2 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 --	III 3 1 2
簡 略 分 級 式 III n e II t d (w) f							

A 土壌区の特徴

この土壌区は朱円南統に属する。表土の厚さは20～25cmで中庸有効土層は70cm前後で中庸である。表土の土性は中粒質で粘着性弱く、耕起、碎土は容易である。

透水性大、保水性中で春季に過乾のおそれがある。

保肥力中～大、固定力小、塩基状態中庸で自然肥沃度は中位である。養分は石灰が多いが、苦土・加里に乏しく、有効態の磷酸中庸で酸度は弱い。

障害性、災害性ともになく、傾斜は概ね3度以下である。

侵蝕度は中程度で春季の強風による風蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況 概ね畑地で馬鈴薯、てん菜、麦類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

腐蝕が少なめなので堆肥等有機物を施用すること、また加里、苦土等の塩基や、磷酸も不足しがちであるから、これらを含む肥料も増量することが望ましい。

春季の強風による風蝕発生が見られるので防風林の整備や被覆作物の栽培といった対策に心がけること。

D 分布 斜里郡斜里町越川、朱円東の一部

記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和45年3月31日

珠 円 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25～30cmで腐植含量5%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2～3、彩度2～3、発達弱度の細粒状構造である。ち密度15～18で疎、PH(H₂O)6.5前後、下層との境界は平坦で判然である。(M_{e-a}、K_{m-5a}等の混合層)

第2層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はLを主とする。色は10YRで明度4～5、彩度6、M-fの浮石礫を混在する。発達極めて弱度の塊状構造、ち密度20前後で中、PH(H₂O)6.5前後、下層との境界は平坦で漸変である。(バフ状、M-fの浮石)

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はL～CL(触感)である。色は10YRで明度5～6、彩度6～8、発達弱度の細塊状構造である。ち密度20前後で中、下層との境界は平坦漸変である。(褐色火山灰)

第4層は厚さ10cm前後で腐植を欠き、土性はCL(触感)を主とする。色は10YRで明度4～6、彩度3～6、発達中度の細塊状構造である。ち密度25前後で中～密、下層との境界は平坦で漸変である。(褐色火山灰)

第5層は厚さ15cm前後で細～小浮石よりなる礫層である。色は5YRで明度4～5、彩度6～8(赤褐色火山灰)

第6層は厚さ20cm前後で小浮石礫よりなる礫層である。色は7.5YRで明度4～6、彩度6～8(赤褐色火山灰)

第7層は概ね110cm以下で腐植を欠く、土性はL(触感)である。色は10YRで明度3～5、彩度3～5

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町以久科南 試坑No. 53下

第1層	0 ~ 28 cm	腐植富む黒褐(10 YR 3/2)のSL、弱度の細粒状構造、ち密度17で疎、PH(H ₂ O) 6.5、調査時の湿り乾、層界平坦判然。
第2層	28 ~ 47	腐植欠く褐(10 YR 4/6)のL、小浮石礫あり、弱度の塊状構造、ち密度21で中、PH(H ₂ O) 6.5。調査時の湿り乾、層界平坦漸変。
第3層	47 ~ 68	腐植欠く黄褐(10 YR 5/6)のL~CL(触感)。弱度の細塊状構造、ち密度22で中、調査時の湿り半乾、層界平坦漸変。
第4層	68 ~ 78	腐植欠くにぶい黄褐(10 YR 5/4)のCL(触感)。中度の細塊状構造、ち密度24で中、調査時の湿り半乾、層界平坦明瞭。
第5層	78 ~ 93	明褐(5 YR 4/8)の細~小浮石よりなる礫層
第6層	93 ~ 113	明褐(7.5 YR 5/8)の小浮石よりなる礫層
第7層	113 ~	腐植欠く褐(10 YR 4/4)のL(触感)。弱度の塊状構造、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~28	3.9		52.3	20.4	21.4	5.9	SL	98	2.76	2.86	0.31	9.2	4.7
2	28~47	8.3		26.3	29.2	38.6	5.9	L	107	2.66	1.36	0.21	6.5	2.2

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	5.8	0.3	21.1	14.0	1.1	0.2	66	1,045	2.8
2	6.5	5.9	0.3	20.3	11.0	0.3	0.1	54	1,800	0.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する土壌統としては、朱円東統、越川中央統、日の出統があるが、朱円東統は地形が緩波状を呈し、越川中央統は山間地に分布し、本統より風蝕の被害が少ないので区別したもので、日の出統はKm-5 a層（粗粒浮石砂礫層）がさらにうすいので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰、火山礫）

A-4 堆積様式 風積（火山性）

B 地形 平坦な台地

C 気候 年平均気温6.2℃ 年降水量733mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地で馬鈴薯、てん菜、麦類が栽培されている。

E 農業上の留意事項 有機物施用、塩基の補給、風蝕防止

F 分布 北海道斜里郡斜里町以久科南、越川、朱円東の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
朱 円 東 - 朱 円 東	III e II d (W) n

② 土壌区別説明

朱 円 東 統 - 朱 円 東 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤 効 土	転 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土 土	の 土 土	の 風 乾	層 換	の 性 態	害 理	冠 す	斜 然 為	水 風	
産 土 土	の 土 土	の 水 水 潤	肥 定 塩	石 苦 加 磷	害 物 的	害 水 べ り	の の の	の 蝕	
力 の 層	の 粘 土	乾 沃	基 状	灰 土 里 酸 要	質 障	の 害	危 危 傾 方	蝕 蝕	
可 能 性	厚 深 含	難 土 着 硬	力 力 態	含 " " " 素 度	の 害	有 無 性	度 度 度	度 性 性	
等 級	さ さ 量	易 性 性 性	湿 性 性 度	度 否	性 性	性 性	斜 斜 斜	蝕 蝕 蝕	
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
III	I II I I 1 1 (2)	(II) 1 2 (2)	I 1 2 1	II 1 2 3 2 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 --	III 3 1 2	
簡 略 分 級 式	III e II d (W) n								

A 土壌区の特徴

この土壌区は朱円東統に属する。表土の厚さは25~30cmで深く、有効土層は80cm前後で中庸である。表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。

透水性大、保水性中庸で春季に一時的に過乾となるおそがある。

保肥力は、固定力小、塩基状態良好で肥沃度は高い。養分では石灰多、苦土と磷酸中、加里少で酸度は弱い、障害性、災害性はないが春季の強風による風蝕のおそれが大きい。

B 植生及び利用状況 概ね畑地で馬鈴薯、てん菜、麦類が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

腐植が減耗しやすいので堆厩肥等の有機物を施用することが大切である。また、施肥の面では、加里、苦土、磷酸が少なめであるから、これらを増施する必要がある。風蝕の対策として防風林の整備、被覆作物の栽培等に心がけること。

D 分布 北海道斜里郡斜里町以久科南、越川、朱円東の一部

記載責任者 宮 脇 忠(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和45年3月31日

秋 の 川 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さで腐植含量5%前後で、土性はLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~3。発達弱度の細粒状構造である。ち密度は15前後で疎、PH(H₂O)6前後。下層との境界は平坦判然である。(Km-5 amix)。

第2層は厚さ5cm前後で小浮石礫層である。色は10YRで明度7~8、彩度3~4下層との境界は平坦で明瞭である。(Km-5 a)

第3層は厚さ15cm前後で腐植に富み(触感)、土性はL(触感)である。色は10YRで明度2~3、彩度2~3、発達弱度の粒状構造で、ち密度22前後で中である。下層との境界は平坦で漸変である。(褐色火山灰)

第4層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はL(触感)を主とする。色は10YRで明度5~6、彩度6、発達弱~中度の塊状構造で、ち密度22前後で中、下層との境界は平坦で漸変である。(褐色火山灰)

第5層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はL(触感)を主とする。色は10YRで明度4~5、彩度3~4。構造は均質連結状を呈する。ち密度25~27で密である。下層との境界は明瞭である。(褐色火山灰層)

第6層は概ね95cm以下で岩片を混入した小浮石礫よりなる礫層である。色は5YRで明度4、彩度6~8(赤褐色火山灰層)

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町秋の川 試坑No.53G

第1層	0~30cm	腐植含む黒褐(10YR 2.5/2)のL、弱度の細粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り乾、層界平坦判然
第2層	30~33	浅黄橙(10YR 8/4)のG、(小浮石礫層)調査時の湿り乾、層界平坦明瞭。

第3層	33~50cm	腐植富む(触感)、暗褐(10YR3/3)のL(触感)。弱度の粒状構造、細小孔含む。ち密度2.2で中。調査時の湿り半乾、層界平坦漸変。
第4層	50~70	腐植欠く黄褐(10YR5/6)のL(触感)、発達中度の塊状構造、細小孔含む。ち密度2.2で中、調査時の湿り半乾、層界平坦漸変
第5層	70~95	腐植欠く褐(10YR4.5/4)のL(触感)、均質連結状を呈する。ち密度2.5で密、調査時の湿り半乾、層界平坦明瞭。
第6層	95cm以下	明褐(5YR4/8)のG、岩片を混入する小浮石礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~30	4.9		42.1	22.5	28.0	7.4	L		2.43	2.91	0.41	7.2	4.8

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.1	0.5	26.7	9.9	0.3	0.3	37	1.4, 1.8	1.9

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接し、類似する土壌統としては、来運統、三井北統があるが、来運統は地形が波状性の台地であるので区別され、三井北統は乾湿が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(火山灰、火成礫)

A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地形 平坦な低い台地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地で馬鈴薯、てん菜、麦類、豆類が栽培されている。

E 農業上の留意事項 塩基の補給、磷酸増施、有機物施用、風蝕防止

F 分布 北海道斜里郡斜里町秋の川富士の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
秋の川 - 秋の川	III n II d (w) fe

② 土壌区別説明

秋の川統 - 秋の川区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	効 土 の 層 の 厚 深 さ	転表表表 土土土 ののの ののの 粘土 難土着 性性さ	地透保湿 のの 水水潤 乾 性性度 湿	然保固土 肥のの 肥定塩 沃基 力力態	分置 層換 のの性 石苦加 灰土里酸 量 含 量 素度	有微酸 有物 害理 害物的 質障 の害 有無性	増地 冠す 害水の のの 危危 険険 度度 斜斜 斜斜 度度	自傾人 斜為 のの 傾方 斜斜 度度 性性 性性
t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
III I II I I 1 1 (2)	(II) 1 2 (2)	II 1 2 2	III 1 3 2 3 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 --	II 2 1 2	
簡略分級式 III n II d (w) f e								

A 土壤区の特徴

この土壤区は秋の川統に属する表上の厚さは概ね30cm前後で深く、有効土層は90~100cmで中庸である。表上の土性は中粒質で耕起・砕土は容易である。

透水性大、保水性中で一時的に過乾のおそれがある。

保肥力大、固定力小、塩基状態中で自然肥沃度は中位である。養肥分は石灰多、加里中、苦土磷酸少で酸度は中である。障害性、災害性はない。春季の強風による風蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況 概ね畑地で馬鈴薯、てん菜、麦類、豆類が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

塩基類不足しがちであるから加里、苦土等を充分に施用すること。また磷酸も少ないので増施すべきである。風蝕受蝕地帯なので防風林の整備や被覆作物を栽培する等の風蝕防止策を講ずる必要があり、有機物を施用して土壤の生産性を保持することも大切である。

D 分布 北海道斜里郡斜里町秋の川、富士の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

日 の 出 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量6~8%、土性はLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度1~2、発達弱度の細粒状構造である。ち密度1.7前後で疎、PH(H₂O)5.5~6.0、下層との境界は平坦判然である。(混合火山灰層)

第2層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度6、発達極めて弱度の塊状構造である。ち密度20前後で中、PH(H₂O)6前後。下層との境界は平坦判然である。(褐色火山灰)

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はL~CL(触感)を主とする。色は10YR~2.5Yで明度5~6、彩度4。発達弱度の塊状構造である。ち密度23前後で中、下層との境界は明瞭である。(褐色火山灰)

第4層は厚さ20cm前後で熔岩片を多量に混入する小浮石礫よりなる礫層である。色は5YRで明度4。彩度8。下層との境界は概ね平坦で漸変である。

第5層は厚さ10cm前後、上層と同様の浮石礫層で色は7.5YRで明度5~6、彩度8、下層との境界は平坦明瞭である。(第4、5層赤褐色火山灰層)

第6層は概ね100cm以下で腐植を欠き、土性CL(触感)を主とする。色は7.5YRで明度4、彩度4、ち密度は12前後で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町日の出、試坑No.83B

第1層	0~24cm	腐植富む黒褐(10YR 2/2)のL、発達弱度の細粒状構造、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り乾、層界平坦判然。
第2層	24~45	腐植欠く黄褐(10YR 5/6)のL、発達弱度の塊状構造、細孔含む。ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り乾。層界平坦判然。
第3層	45~65	腐植欠く黄褐(2.5Y 5/4)のL(触感)発達弱度の塊状構造、細孔含む。ち密度23で中。調査時の湿り半湿。層界平坦明瞭。
第4層	65~85	明褐(5YR 4/8)の腐朽~風化小浮石層、熔岩片を多く混入する。
第5層	85~98	明褐(7.5YR 5/8)の腐朽~風化小浮石層、第4層と同じであるがやや粒形が大きい。
第6層	98~	腐植欠く褐(7.5YR 4/4)のCL(触感)、発達極めて弱度の塊状構造、ところにより大礫が散在する細小孔富む。ち密度は疎、調査時の湿りは湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~24	5.8		28.0	24.9	34.5	12.6	L		2.43	4.56	0.53	8.6	7.4
2	24~45	9.0		23.5	22.7	42.6	11.2	L		2.84	1.15	0.21	5.5	1.8

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基mg/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸収 係 数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	5.0	0.5	25.8	13.6	0.7	0.5	53	1,331	1.2
2	6.0	5.5	0.3	18.1	4.8	0.3	0.3	27	2,014	0.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する土壌統としては、朱円東統、朱円南統があるが、いずれも本統よりKm-5 a層が厚いので区別される。

A-3 母材 非固結成火成岩(火山灰)

A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地形 平坦な低い台地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況

概ね畑地で麦類、馬鈴薯、てん菜が栽培され、一部にナラ、イタヤ、アカダモ、シナ等の樹林地がある。

E 農業上の留意事項 塩基の補給、磷酸増施、侵蝕防止

F 分布 北海道斜里郡斜里町日の出、峰浜の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
日の出 - 日の出	II t d (W) f n e

② 土壌区別説明

日の出 統一日の出区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤 効 土	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	增 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土	耘 表 表 土	層	換 " " 効	害 理	冠 す	斜 為	然 為	水 風
産 土	の 土 土	肥 の の 性	石 苦 加 磷	害 物 的	害 水 り	の の	傾 方 傾	水 風
力 の 層	の の 風	水 水 潤	肥 定 塩	質 障	の の	危 危	傾 方 傾	水 風
可 能 厚	の 礫	粘 土	基 状	の 害	の 害	危 險	傾 方 傾	水 風
性 等 級	深 含 難 土 着 硬 性 性 性 易	乾 性 性 度 湿	沃 基 状 力 力 態 度 否	豊 含 " " 量 素 度 無 性	有 害 無 性	危 險 度 度	傾 方 傾	水 風
	t d g p	w	f n	i	a	s	e	
	II II II I I 1 1 1 1	(II) 1 2 (2)	II 1 2 1	II 1 2 2 3 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 - -	II 2 1 2
簡 略 分 級 式		II t d (W) f n e						

A 土壌区の特徴

この土壌区は日の出統に属する。表土の厚さは20~25cmで中庸である。表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。透水性大、保水性中で一時的に過乾のおそれがある。

保肥力大、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は中～やや高い。

養分は石灰多、苦土と加里中、有効態の磷酸小で中程度の酸度である。

障害性、災害性はなく、春季に風蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

概ね畑地で麦類、馬鈴薯、てん菜が栽培されており一部にナラ、イタヤ、アカダモ、シナ等の樹林地がある。

C 地力保全上の問題点

苦土、加里、磷酸等の養分が少ないので、これらの肥料を増施すること。

また風蝕のおそれがあるので被覆作物等を栽培し、かつ防風林を整備する必要がある。

D 分 布 北海道斜里郡斜里町日の出、峰浜の一部
記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和45年3月31日

越 川 中 央 統

(1) 土層統の概説

A 土層統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17cm前後で腐植含量6～7%、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2、彩度1～2。発達弱度の細粒状構造である。ち密度17前後で疎、PH(H₂O)6.5前後、下層との境界平坦明瞭である。(Me-a、Km-5a等の混合層)

第2層は厚さ3cm前後で腐植を欠く、粒径2～3mmの浮石砂礫層。色は10YRで明度7～8、彩度3～4、ち密度10前後で極疎、下層との境界平坦明瞭である。(Km-5a)

第3層は厚さ20cm前後で腐植含量10%前後。土性はLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1、発達強度の細粒状構造で細小孔含む。ち密度18前後で疎。PH(H₂O)6.5前後。下層との境界平坦漸変である。(褐色火山灰)

第4層は厚さ15cm前後で腐植含量10%前後。土性はSiLを主とする。色は10YRで明度1～2、彩度1～2、発達強度の細粒状構造で細小孔含む。ち密度20前後で中、PH(H₂O)6前後。下層との境界平坦判然である。(褐色火山灰)

第5層は厚さ18cm前後で腐植含量3%前後、土性はSiLを主とする。色は7.5～10YRで明度3～4、彩度4～6。発達弱度の塊～細塊状構造で細小孔含む、ち密度20前後で中。PH(H₂O)6前後。下層との境界平坦判然である。(褐色火山灰)

第6層は厚さ20cmで腐植を欠き、土性はSiLを主とする。色は7.5～10YRで明度3～4、彩度4～6、発達中程度の塊状構造で細孔含む。ち密度25前後で密、PH(H₂O)6前後。下層との境界平坦明瞭である。(褐色火山灰)

第7層は概ね90～95cm以下で風化浮石礫層である。色は5YRで明度4、彩度6～8、上部10cmまでは粒径3～8mm、下部5～10mmを主とする。(赤褐色火山灰)

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)斜里郡斜里町越川 試坑No.530

第1層	0~17 cm	腐植富む黒(10YR2/1)のSL、弱度の細粒状構造、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭
第2層	17~20	腐植欠く純黄橙(10YR7/4)のS(G)、未風化の浮石層、層界平坦明瞭
第3層	20~40	腐植頗る富む(触感)黒(10YR1/1)のSiL、強度の細粒状構造、細小孔含む、ち密度18で疎PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、層界平坦漸変
第4層	40~56	腐植富む黒褐(10YR2/2)のSiL、強度の細粒状構造、細小孔含む。ち密度21で中、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、層界判然
第5層	56~73	腐植欠く褐(8.75YR4/6)のSiL、弱度の細塊~塊状構造、細小孔含む、ち密度21で中、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、層界判然
第6層	73~93	腐植欠く褐(8.75YR4/6)のSiL、中度の塊状構造、細孔含む、ち密度26で密PH(H ₂ O)6.1。調査時の湿り半乾、層界明瞭
第7層	93 cm以下	明褐(5YR4/8)の風化浮石礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	5.0		50.9	24.2	19.6	5.3	S L	122	2.53	3.58	0.48	7.5	5.9
2	20~40	8.7		23.8	23.2	41.8	11.2	L	109	2.41	5.91	0.74	8.0	9.3
3	40~56	11.5		10.3	26.7	50.4	12.6	SiL	105	2.46	6.32	0.67	9.4	9.6
4	56~73	9.7		9.1	31.4	51.9	7.6	SiL	100	2.58	2.82	0.34	8.3	4.4
5	73~93	6.7		13.4	29.5	48.8	8.3	SiL		2.73	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	6.2	0.1	28.7	22.0	0.8	0.2	76	1045	7.9
2	6.5	5.5	0.4	41.2	24.0	0.7	0.1	58	1800	0.3
3	6.1	5.3	0.3	44.1	17.2	0.4	0.1	39	2205	0.1
4	6.1	5.3	0.4	27.1	6.3	0.3	0.2	23	2104	0.4
5	6.1	5.3	0.5	19.3	4.4	0.4	0.3	23	1657	0.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する土壌統として朱円南統、朱円東統があるが、いずれもバフ状の火山灰が存在し、かつ風蝕害も大きいので区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩(火山灰、火山礫)

A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地 形 平坦な台地

C 気 候 年平均気温6.2℃ 年降水量733mm

D 植生及び利用状況 麦類、豆類、馬鈴薯、てん菜等の栽培されている畑地

E 農業上の留意事項 深耕、塩基補給、磷酸増施、風蝕防止

F 分 布 北海道斜里郡斜里町越川の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
越川中央一越川中央	II t d(w) ne

② 土壤区別説明

越川中央統一越川中央区

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤効土	転表表表	地透保湿	然保固土	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
生土	土の	土の	層	換	効	害理	冠す	斜為	水風
産の層	のの	のの	肥の	の性	態量	害物的	害水の	然の	水風
力の層	のの	のの	肥定塩	石苦加	量	質障	害水の	然の	水風
可能厚	のの	のの	沃基	豊灰土	里酸要	の害	危危	傾方傾	蝕蝕
性深	含難土	乾	沃基	豊灰土	里酸要	の害	危危	傾方傾	蝕蝕
等級	ささ量易	性性	性性	力力	態	性	性	斜斜	度性
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
	II II I I 1 1 1	(II) 1 3 (2)	I 1 2 1	II 1 2 3 2 1 1		I 1 1	I 1 1	I 1 - -	II 2 1 2
簡略分級式		II t d(w) ne							

A 土壤区の特徴

この土壤区は越川中央統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は概ね90cmで中庸である。表土の土性は中粒質で耕耘・砕土は容易である。

透水性大、保水性小で一時的に過乾のおそれがある。

保肥力大、固定力小、塩基状態良好で肥沃度は高い。養肥分は石灰多、苦土中、加里少、磷酸中で酸度も弱い。障害性、災害性はないが春季の強風により風蝕を受けるおそれがある。

B 植生及び利用状況

麦類、豆類、馬鈴薯、てん菜等が栽培されている畑地。

C 地力保全上の問題点

作土層が一般に浅いので深耕すること。その場合下層の磷酸固定力が強いので磷酸を増量することが必要である。また加里、苦土、磷酸等の養肥分が不足気味であるから増肥すること。風蝕のおそれがあるから防風林を整備する必要がある。

D 分布

北海道斜里郡斜里町越川の一部

記載責任者 官 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭和45年3月31日

董 野 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量3~6%、土性はSLを主とする。色は10YRで明度3、彩度1~2。発達弱度の細粒状構造、ち密度16前後で疎、PH(H₂O)6前後、下層との境界は平坦明瞭である。(Me-a km-1a~5aの混合層)

第2層は厚さ20cm前後で腐植2%内外、土性はLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度4~6。発達弱度の細塊状構造、ち密度10前後で極く疎、PH(H₂O)6.5前後、下層との境界は平坦漸変である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はL~SL触感(M-f?)である。色は10YRで明度4~6、彩度4~6。発達弱度の細塊状構造で細小孔に富む。ち密度15前後で疎、下層との境界は平坦判然である。(M-f?)

第4層は厚さ30cm前後で腐植を欠き、土性はL(触感)を主とする。色は10YRで明度5~6、彩度6、発達弱~中度の塊~細塊状構造で細小孔を含む。ち密度22前後で中、下層との境界は平坦判然である。(褐色火山灰層)

第5層は概ね90cm以下で腐植を欠き、土性はCL~C(触感)である。色は7.5YRで明度4~5、彩度6、発達極めて弱度の細塊状構造で細小孔含む。ち密度20~23で中である。

代表的断面形態

(所在地)斜里郡斜里町大栄 試坑No.27B

第1層	0~3cm	黒褐(7.5YR 2/2)の粗腐植層、層界平坦明瞭
第2層	3~6	腐植欠く灰白(7.5YR 8/1)のSL、Me-a 火山灰、ち密度15で疎、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭。
第3層	6~14	腐植富む黒褐(7.5YR 2/2)のSL。km-1~4a 火山灰、弱度の細粒状構造、ち密度15で疎、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭。
第4層	14~19	腐植欠く鈍黄橙(10YR 7/4)のS、km-5a 火山灰、構造は単粒状、ち密度10で極疎、第2~第4層のPH(H ₂ O)5.9調査時の湿り乾、層界平坦明瞭。
第5層	19~38	腐植欠く褐(10YR 4.5/6)のL、弱度の細塊状構造、ち密度11で疎、PH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り乾、層界平坦漸変。
第6層	38~58	腐植欠く黄褐(10YR 5/6)のL~SL(触感)、弱度の細塊状構造、細小孔富む、ち密度15で疎、調査時の湿り半乾、層界平坦判然。

第7層	58~88cm	腐植欠く黄褐(10YR 5/6)のL、(触感)、弱度の塊~細塊状構造、細小孔含む。ち密度22で中、調査時の湿り半乾、層界平坦判然。
第8層	88~	腐植欠く褐(7.5YR 4/6)のCL(触感)、極めて弱度の細塊状構造、細小孔富む。ち密度22で中、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地 容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	3~19	2.8		35.6	36.8	21.9	5.7	SL	79	2.67	1.64	0.28	5.9	2.8
2	19~38	8.2		20.8	33.9	34.2	11.1	L	82	2.59	2.20	0.20	11.0	3.5

層位	PH		置換酸 度 Y_1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰 飽和度	磷酸吸収 係 数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.9	0.8	2.04	7.9	0.4	0.1	3.9	6.22	2.9
2	6.4	5.7	0.5	17.9	6.0	0.3	0.4	3.4	15.98	0.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統には斜里統、大栄統があるがいずれも堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩(火山灰、火山砂礫)

A-4 堆積様式

風積(火山性)

B 地 形

2~3°の緩傾斜の台地

C 気 候

年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況

概ね畑地で麦類、馬鈴薯、てん菜が栽培され一部にイタヤ、カンワ、アキカラマツ等の自生する未耕地がある。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、塩基の補給、風蝕防止

F 分 布

北海道斜里郡斜里町大栄の大部分

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土 壤 区 一 覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
萱 野 一 萱 野	IIIe II t (w) fn

② 土 壤 区 別 説 明

萱野統一萱野区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵											
壤	効土	転表表表	地透保湿	然保固土	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐								
生土	土の	土の	土の	層	換	効	害理	冠す	斜為	水風								
産	の	の	の	肥	の	態	害物的	害水	然	為								
力	の	の	水水潤	肥定塩	の性	量	質障	のの	の	蝕								
可	の	粘	乾	沃	基	豊	の害	危危	傾方	蝕蝕								
能	厚	難土	乾	沃	基	豊	有	險險	傾方	蝕蝕								
性	深	含	性	力	状	量	無性	度度	斜向斜	度性性								
等	級	さ	量	易	性	度	性	性	斜	蝕								
級	さ	さ	量	易	性	度	性	性	斜	蝕								
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e							
	III	II	I	I	I	I	I	I	I	I	II	I	—	—	III	3	2	2
簡略分級式		III e II t(w) f n																

A 土壤区の特徴

この土壤区は菅野統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は概ね1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起、碎土は容易である。透水性大、保水性小で一時的に過乾のおそれがある。

保肥力中、固定力ごく小、塩基状態中で自然肥沃度は中位である。養肥分については石灰多、苦土少、加里少、磷酸中で酸度は弱～中である。

障害性、災害性はなく、傾斜も3°以下であるが春季の強風による風蝕のおそれが大きい。

B 植生及び利用状況

概ね畑地で麦類、馬鈴薯、てん菜が栽培されており一部にイタヤ、カンワ、アキカラマツ等の自生する未利用地がある。

C 地力保全上の問題点

作土層が一般に浅めのところが多いので深耕すること。また腐植が少ないから有機物を施用することが大切である。加里、苦土等の養分に乏しいのでこれらの肥料を増施する必要がある。風蝕を受けやすいので防風林整備等侵蝕防止に努めること。

D 分 布

北海道斜里郡斜里町大栄の大部分

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

岩 尾 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量10%内外、土性はLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~3、発達中度の細粒状構造。ち密度1.5前後で疎、PH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦判然である。(褐色火山灰)

第2層は厚さ25cm前後で腐植含量2~4%、土性はSiLを主とする。色は7.5~10YRで明度4~5、彩度4~6、発達弱度の細塊状構造、ち密度1.8前後で疎、PH(H₂O)6前後、下層との境界は平坦判然である。(褐色火山灰)

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はLを主とする。色は7.5~10YRで明度4~5、彩度4~6、発達中度の塊状構造、ち密度2.5~2.8で密、PH(H₂O)6前後、下層との境界は平坦明瞭である。(褐色火山灰)

第4層は厚さ15cm前後で1~3mmの浮石砂礫層、色は5YRで明度4~5、彩度6~8、構造は無構造で単粒状、ち密度2.0前後で中、下層との境界は波状で明瞭である。(赤褐色火山灰)

第5層は概ね75cm以下で腐植を欠き、安山岩の巨礫が散在し、岩片を混合する土性L(触感)を主とする。色は7.5~10YRで明度4~5、彩度6。発達弱度の塊状構造。細小孔富む。ち密度2.0前後で中である。

代表的断面形態

(所在地)斜里郡斜里町岩尾別 試坑No.740

第1層	0~22cm	腐植富む黒褐(10YR3/2)のL、中度の細粒状構造、ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾、層界平坦判然。
第2層	22~45	腐植含む褐(8.75YR4/6)のSiL、弱度の細塊状構造、ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)6.1。調査時の湿り乾、層界平坦判然。
第3層	45~60	腐植欠く褐(8.75YR4.5/4)のL、中度の塊状構造。細孔あり、ち密度2.7で密、PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り乾、層界平坦明瞭
第4層	60~75	明褐(8.75YR4/8)の浮石砂礫層、ち密度2.0で中、調査時の湿り半湿、層界波状明瞭。
第5層	75~	腐植欠く褐(8.75YR4/6)のL(触感)。巨礫を含む、弱度の塊状構造、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地 容積 重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	4.9		10.8	43.9	32.5	12.8	L		2.22	6.85	0.454	15.1	11.8
2	22~45	8.0		9.4	31.4	46.1	13.1	SiL		2.73	2.90	0.200	14.5	5.0
3	45~60	9.0		27.0	23.7	36.0	13.3	L		2.90	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.4	1.3	26.8	5.9	0.4	0.4	22	1418	0.2
2	6.1	5.2	0.4	21.6	3.8	0.3	0.1	18	1902	0.4
3	5.9	5.7	0.3	15.2	1.7	1.9	0.2	11	2090	0.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としてはウトロ統があるが、水の作用を強く受けた洪積土壌で、従つて堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩（火山灰）

A-4 堆積様式 風積（火山性）

B 地 形 波状性の台地

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 牧草地と白かば、かしわ、ささの自生する原野

E 農業上の留意事項 塩基の補給、磷酸増施

F 分 布 北海道斜里郡斜里町岩尾別の大部分、峰浜の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土 壤 区 一 覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
岩尾別一岩尾別	III _n II _t d(w)fs

② 土 壤 区 別 説 明

岩尾別統一岩尾別区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効 土 耘表表表 地透保湿 然保固土 分置 有微酸 有物 増地 自傾人 侵耐	生土 土の 層の 可能厚 性深 等級さ	土の 土の 磔の 含深 量易	土の 乾 粘 土 着 硬 性	土の 潤 肥定塩 基 沃 基 状 力 態 度	微酸 量 害物 質障 有 害 性 無 性	地冠す 害水の 危 険 度 斜 向 斜 傾	人 為 的 傾 斜 向 斜 傾 度 性 性
t d g p	w	f	n	i	a	s	e
III II II I I 1 1 (2)	(II) 1 2 (2)	II 1 2 3	III 2 3 2 3 1 2	I 1 1	I 1 1	II 2 --	I 1 1 1
簡略分級式		III n II t d (w) f s					

A 土壤区の特徴

この土壤区は岩尾別統に属する。表土の厚さは20～25cmで中庸、有効土層概ね60cmで中庸である。表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。透水性大、保水性中庸で一時的に軽度の過乾となることがある。

保肥力大、固定力小、塩基状態不良であるが自然肥沃度は中位である。養肥分については石灰中、苦土少、加里中、磷酸少で酸度は中程度である。障害性、災害性はなく、4～6°の傾斜を有する。風水蝕のおそれは現状では少ない。

B 植生及び利用状況 牧草地として利用されており、また白かば、かしわ、ささの自生する原野も一部にある。

C 地力保全上の問題点 いずれの塩基分にも乏しいので補給する必要がある。また有効態の磷酸も少ないので増施すること。

D 分 布 北海道斜里郡斜里町岩尾別の大部分、峰浜の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和45年3月31日

ウ ト 口 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量10%内外、土性はLを主とする。色は7.5～10YRで明

度 2～3、彩度 1～2、発達弱度の細粒状構造、ち密度 1.8 前後で疎、PH(H₂O) 6 前後、下層との境界は平坦判然である。

第 2 層は厚さ 10cm 前後で腐植含量 10% 内外、土性は SiL～CL である。色は 7.5～10 YR で明度 2～3、彩度 1～2、発達中～強度の細粒状構造、細孔を含む。ち密度 2.0 前後で中、PH(H₂O) 6.5 前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第 3 層は厚さ 20cm 前後で概して腐植を欠く、土性は L～CL である。色は 7.5～10 YR で明度 4～5、彩度 6、発達弱度の細塊状構造。細孔に富む。ち密度 2.0 前後で中、PH(H₂O) 6～6.5 下層との境界は平坦判然。(褐色火山灰)

第 4 層は厚さ 10cm 前後で腐植を欠き、土性は L～CL (触感) である。色は 10 YR～2.5 Y で明度 4、彩度 4、発達中度の細塊状構造、ち密度 2.3 前後で中、下層との境界は平坦明瞭である。(褐色火山灰)

第 5 層は厚さ 35cm 前後で腐植を欠く浮石砂礫層、色は 5～7.5 YR で明度 4～6、彩度 8、ち密度 2.0 前後で中、下層との境界は平坦明瞭である。(赤褐色火山灰)

第 6 層は厚さ 2cm 前後で腐植土～腐植にすこぶる富む。土性は H～C、色は 7.5～10 YR で明度 1、彩度 1、構造は均質状を呈す。下層との境界平坦明瞭である。

第 7 層は概ね 95cm 以下で腐植を欠き、土性は C を主とする。色は 10 YR で明度 7～8、彩度 3～4、発達弱度の塊状構造で細小孔含む。青色の小岩片を多く含有し、酸化沈積物をわずかに含む。ち密度は密である。

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町日の出 試坑 No. 56

第 1 層	0～20cm	腐植富む黒褐 (7.5YR 2/2) の L、弱度の細粒状構造、ち密度 1.8 で疎、PH(H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半湿、層界判然。
第 2 層	20～28	腐植富む黒褐 (7.5YR 3/1) の SiL、中～強度の細粒状構造、細孔含む。ち密度 1.9 で中、PH(H ₂ O) 6.4、調査時の湿り半湿、層界明瞭。
第 3 層	28～48	腐植含む褐 (8.75YR 4/6) の SiL、弱度の細塊状構造、細孔富む、ち密度 1.9 で中、PH(H ₂ O) 6.2、調査時の湿り半湿、層界判然。
第 4 層	48～58	腐植欠く褐 (10YR 4/4) の L～CL (触感)、弱～中度まれに強度の細塊状構造、ち密度 2.3 で中、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第 5 層	58～93	橙 (6.25YR 6/8) の浮石礫層、小粒の岩片混合、ち密度 2.2 で中、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第 6 層	93～95	黒 (10YR 1/1) の腐植土、構造は均質状、ち密度は疎、調査時の湿り半湿、層界明瞭。
第 7 層	95～	腐植欠く鈍黄橙 (10YR 7/3) と鈍黄褐 (10YR 5/3) の C、弱度の塊状構造、細小孔含む、青色岩片に富む、酸化沈積物わずかに含む、ち密度は密、調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地 容積 重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	7.2		24.6	24.3	41.4	9.7	L	125	2.56	5.61	0.464	12.1	9.7
2	20~28	8.7		17.8	21.8	47.6	12.8	SiL	121	2.57	5.96	0.478	12.5	10.3
3	28~48	13.3		18.6	24.4	45.1	11.9	SiL	117	2.75	4.01	0.228	17.6	6.9

層位	P H		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100 ρ	置換性塩基me/100 ρ			石灰飽 和度%	磷酸吸収 係 数	有効態 磷酸 mg/100 ρ
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.1	0.5	35.8	19.2	0.3	0.4	54	1580	0.7
2	6.4	5.4	0.4	43.4	25.6	0.3	0.2	59	2163	0.4
3	6.2	5.5	0.5	28.7	7.1	0.3	0.1	25	2366	0.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては岩尾別統があるが堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩（火山灰、火山礫）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地 形 5度前後の傾斜をもつ台地

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況

麦類、馬鈴薯等が栽培されている畑地とナラ、イタヤ、シコロ、アカダモ等が自生する原野

E 農業上の留意事項 塩基の補給、磷酸増施、深耕

F 分 布 北海道斜里郡斜里町日の出の一部、宇登呂の大部分

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
ウトロ - ウトロ	II dns

② 土壤区別説明

ウトロ 統 - ウトロ 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生 産 力 の 可 能 性 等 級	効 土 の 層 の 厚 さ	耘 表 土 の 難 性 易	地 透 水 潤 乾 性 性 度 湿	然 保 固 土 層 肥 定 塩 基 状 力 力 態 度	分 置 換 " " 効 性 態 量 石 苦 加 磷 灰 土 里 酸 要 含 " " " 素 度 否	有 物 害 質 障 害 有 無 性 性	增 地 冠 す べ り の の 危 險 度 度 斜 斜	自 傾 人 斜 為 の 傾 方 斜 度 性 性 侵 耐 風 水 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
II	I II I I 1 1 1	I 1 2 1	I 1 3 1	II 1 3 2 3 1 1	I 1 1	I 1 1	II 2 --	I 1 1 1
簡略分級式								
II dns								

A 土壤区の特徴

この土壤区はウトロ統に属する。表土の厚さは30cm前後で深く、有効土層は60cm前後で中庸である。表土の土性は中粒質で耕起・碎土は容易である。透水性大、保水性中庸で過湿・過乾のおそれは少ない。

保肥力大、固定力中、塩基状態良好で肥沃度は高いほうである。養肥分については石灰多く、苦土少、加里中、磷酸少で酸度は弱い、障害性、災害性 特になく5°前後の傾斜であるが風水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

麦類、馬鈴薯等が栽培されている畑地とナラ、イタヤ、シコロ、アカダモ等の自生する原野

C 地力保全上の問題点

加里、苦土等の塩基が少なめだからこれらの肥料を多く用いること、また磷酸も増施する必要がある。一般に作土層が浅いので深耕すること。

D 分 布

北海道斜里郡斜里町日の出の一部、宇登呂の大部分

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

朱 円 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量7%内外、土性はSL~Lである。色は10YRで明度2~3、彩度2~3、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.7前後で疎、PH(H₂O)6.5前後、下層との境界は平坦判然である。(ka-5aを主とする混合火山灰)

第2層は厚さ25cm前後で概ね腐植を欠き、土性はLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度6、発達弱度の細塊状構造、細孔含む、ち密度2.1前後で中PH(H₂O)6.5前後、下層との境界平坦で明瞭である。(褐色火山灰を主とした水積物パフ状)

第3層は概ね50cm以下で円礫に富む砂礫層、赤褐色火山灰の浮石及び熔岩片を混合している。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)斜里郡斜里町朱円 試坑№53E

第1層	0~25cm	腐植富む黒褐(10YR2/3)のL、弱度の細粒状構造、ち密度1.7で疎 PH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	25~50	腐植を含む褐(10YR4.5/6)のL、弱度の細塊状構造、ち密度2.1で中、 PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第3層	50~	円礫に富み浮石、熔岩片を混合する砂礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含 量 %	粒径組成%				土性	現地 容積 重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	5.6		44.3	20.4	27.5	7.8	L		2.54	3.91	0.24	16.3	6.7
2	25~50	10.2		32.4	25.9	30.5	11.2	L		2.81	2.75	0.15	18.5	4.7

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和 度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.6	6.0	0.3	23.2	19.4	0.4	0.4	84	1194	2.0
2	6.5	5.9	0.3	17.6	9.6	0.4	0.4	55	1935	0.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては以久科統、朱円統があるが、堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(火山灰、火山礫)

A-4 堆積様式 風積(火山性)/水積(河成)

B 地形 平坦な低い台地

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm
 D 植生及び利用状況 麦類、馬鈴薯、てん菜等が栽培されている畑地
 E 農業上の留意事項 深耕、塩基の補給、磷酸増施
 F 分 布 北海道斜里郡斜里町朱円の一部
 調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道中央農業試験場)
 年 月 日 昭和45年3月31日

- (2) 土 壤 統 の 細 分
 ① 土 壤 区 一 覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
朱円中央 - 朱円中央	IItdne

- ② 土 壤 区 別 説 明

朱円中央統一朱円中央区

示 性 分 級 式 (畑)

	土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤	効 土	耘 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 入	侵 耐 耐
生 土	土 の	土 土 の	風 の 乾	肥 の	層 換	有 効	害 理	冠 す	斜 為	水 風
産 力	の 層	の の 粘 土	水 水 潤	肥 定 塩	の 性	態 量	害 物 的	害 水 的	然 斜	の 為
可 能	の 厚	難 土 着	乾	沃	石 苦 加 磷	要	質 障	の の	傾 方	傾 蝕
性 等	深 含	性 性 性	性 性 性	力 力 態	灰 土 里 酸	素 度	有 害	危 險	斜 向 斜	蝕 蝕
級	さ さ 量	易	湿	度	豊 含	量	無 性	性 度	斜 向 斜	度 性 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
II	II II I I I I I	I I I 2 I	I I 2 I	II I 3 2 2 I I	I I I	I I I	I I - -	II I I 2		
簡 略 分 級 式		IItdne								

A 土 壤 区 の 特 徴

この土壌区は朱円中央統に属する。表土の厚さは25cm前後で中庸、有効土層は50cm前後で中庸である。表土の土性は中粒質で耕起・砕土が容易である。透水性大、保水性中庸で過湿、過乾のおそれは少ない。

肥力大、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は高い。

養分については石灰多、苦土少、加里中、磷酸中で酸度は弱い。

障害性、災害性はなく、春季の強風による風蝕のおそれがある。

B 植 生 及 び 利 用 状 況

畑地で麦類、馬鈴薯、てん菜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

一般に作土層が浅めなので深耕することが望ましい、その場合は下層土の磷酸固定力が強いので磷酸資材を充分投入すること。また養肥分に不足気味であるから施肥量を増やす必要がある。

D 分 布

北海道斜里郡斜里町朱円の一部

記載責任者

宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付

昭和45年3月31日

豊 里 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量6%内外、小～中円礫が散在し、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2～3、彩度3、発達極めて弱度の細粒状構造、ち密度1.5前後で疎、PH(H₂O)6.5～7.0、下層との境界は平坦で判然である。(Km-5a主)

第2層は厚さ20cm前後で腐植を欠くが3～4%のものもある。土性はSLを主とする。色は10YRで明度4～5、彩度4、発達極めて弱度の塊状～細塊状構造、ち密度1.5前後で疎、PH(H₂O)6.5～7.0、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は概ね45cm以下で腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで明度4～5、彩度2～3、構造は単粒状を呈する。ち密度は1.5前後で疎

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)斜里郡斜里町豊里 試坑No.14E

第1層	0～25cm	腐植富む黒褐(10YR2/3)のSL、極めて弱度の細粒状構造、ち密度1.6で疎、PH(H ₂ O)6.7、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	25～45	腐植含む褐(10YR4/4)のSL、極めて弱度の塊状構造、ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)6.8、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第3層	45～	腐植欠く灰黄褐(10YR4/2)のS(触感)、構造は単粒状、ち密度1.5で疎、調査時の湿り半湿

代 表 的 断 面 の 分 析 成 積

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～25	2.9		57.9	25.2	14.3	2.6	SL		2.50	2.98	0.251	11.9	5.7
2	25～45	5.7		17.3	56.0	23.5	3.2	SL		2.69	2.44	0.188	13.0	4.2

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.7	5.6	0.3	18.3	12.8	0.4	0.4	70	618	6.3
2	6.8	5.8	0.1	22.9	16.1	0.4	0.5	70	1331	0.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては来運統があるが堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材

非固結火成岩（火山灰）

A-4 堆積様式

風積（火山性）／水積（河成）

B 地形

高台を解析している沢

C 気候

年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況

概ね畑地で麦類、馬鈴薯、てん菜等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、塩基の補給、侵蝕防止

F 分布

北海道斜里郡斜里町豊里の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）
年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
豊 里 - 豊 里	IItd(w)ne

② 土壌区別説明

豊 里 統 - 豊 里 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効 土	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置 有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土	土 土 土 土	の 水 水 潤	肥 肥 定 塩	層 換 " " 効	害 理	冠 す べ り	斜 為	水 風
産 力	の 礫	の 乾 粘 土 乾	沃 基 状	石 苦 加 磷	質 障	の の	の	蝕
可 能 性	厚 深 含	難 土 着 硬 性 性 さ	力 力 態	灰 土 里 酸 要 含 " " " 素 度	の 害 有 無 性	危 危 傾 方	傾 方	蝕 蝕
等 級	さ さ 量 易	湿 度	否	性 性 性 性	性 性 性 性	斜 斜 斜 斜	斜 斜 斜 斜	度 性 性 性 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
II	II II I I I I (2)	(II) 1 3 (2)	I 2 1 1	II 1 3 2 2 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 --	II 1 2 2
簡 略 分 級 式		IItd(w)ne						

A 土壌区の特徴

この土壌区は豊里統に属する、表土の厚さは25cm前後で中庸、有効土層は概ね1m以内で中庸である。表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。

透水性大、保水性小で一時的に過乾となるおそれがある。

保肥力中、固定力ごく小、塩基状態良好で自然肥沃度は高位である。

養肥分については石灰多、苦土少、加里中、磷酸中で酸度は極めて弱い。特殊な障害性、災害性はなく、風水蝕をうけるおそれがある。

B 植生及び利用状況 畑地で麦類、馬鈴薯、てん菜等が主作物として栽培されている。

C 地力保全上の問題点

作土層が一般に浅いので深耕すること、また有機物を施用することも土壌の保水力を高め乾ばつ防止上有効であろう。苦土、加里等の塩基に不足がちであるからこれらの肥料を増施すること、風水蝕にもろいので牧草帯設置、防風林整備侵蝕の防止に留意すること。

D 分 布 北海道斜里郡斜里町豊里の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

越 川 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量7~8%、安山岩(泥岩)の小~中円礫及び半角礫を含み、土性はSLである。色は10YRで明度2~3、彩度2~3、発達弱度の細粒状構造、ち密度18前後で疎、PH(H₂O)5.0~5.5。下層との境界は平坦で明瞭である。(Me-a, km-5a等)

第2層は厚さ5cm前後で腐植を欠く浮石層、色は10YRで明度7~8、彩度3~4、ち密度18前後で疎、下層との境界は平坦で明瞭である。(Km-5a)

第3層は厚さ20cm前後で腐植含量6%内外、小円礫に富む、土性はCLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~3、発達強度の細粒状構造、細孔含む、ち密度20前後で中、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦判然である。

第4層は厚さ10cm前後で腐植含量3~4%、小円礫を含む、土性はCLを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度3~4、発達弱度の細粒状構造、細孔含む。ち密度20前後で中、下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は概ね55cm以下で小~中円礫~半角礫よりなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)斜里郡斜里町越川 試坑No.94

第1層	0~20cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のSL、小~中円礫、半角礫含む、弱度の細粒状構造、ち密度18で疎、PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り半湿、層界明瞭
-----	--------	---

第2層	20~25	腐植欠く鈍黄橙(10YR7/4)のS浮石の小礫含む。単粒状、ち密度18で疎。調査時の湿り半乾、層界明瞭
第3層	25~45	腐植富む黒褐(10YR3/2)のCL、小円礫富む。強度の細粒状構造、細孔含む。ち密度20で中。pH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。層界判然
第4層	45~55	腐植含む暗褐(10YR3/3)のCL(触感)、小円礫含む。中度の細粒状構造、細孔含む、ち密度20で中、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第5層	55~	小~中円礫及び半角礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.4		47.6	22.5	23.0	6.9	SL	124	2.41	4.41	0.367	12.0	7.6
2	25~40	6.0		20.6	19.1	38.5	21.8	CL	128	2.59	3.88	0.420	9.2	6.3

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石飽和度 %	灰度 %	磷酸吸収係数	有効態酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.3	4.5	4.5	27.8	8.4	0.4	0.4	30		826	9.6
2	5.4	4.3	6.3	37.3	9.6	0.3	0.4	26		1,766	0.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する土壌統として朱円統、以久科統があるがいずれも堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩 半固結水成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性) 水積/水積(河成)

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 畑地で麦類、馬鈴薯、てん菜等が栽培されている。

E 農業上の留意点 深耕、混層耕、有機物施用、塩基の補給

F 分布 北海道斜里郡斜里町越川、奥蘂別の一部

調査及び記載責任者

宮 脇 忠(北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
越 川-越 川	II t d g f n

② 土壌区別説明

越 川 統-越 川 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤 効 土	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土	転 表 表 土	肥 定 塩	層 換	有 効 量	害 理	冠 す	斜 為	水 風
産 土	の 土 土	肥 定 塩	の 性	態 量	害 物 的	害 水	然 為	水 風
力 の 層	の の 乾	肥 定 塩	の 性	態 量	害 物 的	害 水	然 為	水 風
可 能 性	の の 粘 土	沃 基 状	石 苦 加 燐	灰 土 里 酸 要	質 障	の の	の の	蝕 蝕
厚 深	含 難 土 着 硬	沃 基 状	豊 含	量 素 度	の 害	危 險	傾 方	蝕 蝕
等 級	さ さ 量 易	性 性 度 度	力 力 態 否	性 性 性	無 性 性	度 度 度	斜 向 斜	度 性 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
II	II II II I 1 1 (2)	I 1 2 1	II 1 2 3	II 1 3 2 2 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 --	I 1 1 1
簡 略 分 級 式		II t d g f n						

A 土壤区の特徴

この土壤区は越川統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は55~60cmで中庸である。表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。

透水性大、保水性中で過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力大、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中位である。養肥分については石灰多、苦土少、加里中、燐酸中で酸度も中程度である。

特殊な障害性、災害性はなく風水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

畑地で麦類、豆類、馬鈴薯、てん菜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

一般に作土層が浅いので、深耕し、有機物を施用することが望ましいが厚さ3~5cm程度の火山浮石砂礫層が残っているところが多く、かつその下層土は細粒質で腐植を持っているので混層耕すると良いと思われる。また塩基に不足気味であるから施肥量をふやす必要があろう。

D 分 布 北海道斜里群斜里町越川、奥薬別の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

羅 翦 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量9%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2~

3、彩度 2~3、発達弱度の細粒状構造、小~中孔含む、ち密度 1.5前後で疎、PH (H₂O) 6 前後、下層との境界は平坦明瞭である。(Me-a, Km-5a混合層)

第2層は厚さ 3cm前後で腐植を欠く、浮石の小礫を含み土性はSである。色 1.0 YRで明度 4~5、彩度 4、単粒状を呈する。ち密度 1.5前後で疎、下層との境界平坦明瞭である。(Km-5a)

第3層は厚さ 2.0cm前後で腐植含量 8%内外、土性はLを主とする。色は 1.0 YRで明度 2~3、彩度 2~3、発達弱~中度の細粒状構造で酸化沈積物含む、ち密度 1.5前後で疎、PH (H₂O) 6 前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は概ね 4.5cm以下で腐植を欠き、土性はSを主とする。色は 2.5 Yで明度 4~5、彩度 4~6、浮石礫を含み単粒状を呈する。酸化沈積物含む。ち密度 1.5前後で疎、PH (H₂O) 6 前後、(M-fの水積物)

代表的断面形態

(所在地) 斜里群斜里町中斜里 試坑 691

第1層	0~2.0 cm	腐植富む黒褐 (1.0 YR 3/2) の SL、弱度の細粒状構造、小中孔含む、ち密度 1.5 で疎 PH (H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第2層	2.0~2.3	腐植欠く褐 (1.0 YR 4/4) の S、浮石の小礫含む、単粒状、ち密度 1.5 で疎、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第3層	2.3~4.5	腐植富む黒褐 (1.0 YR 2/2) の L、弱度の細粒状構造、酸化沈積物含む、ち密度 1.5 で疎、PH (H ₂ O) 6.1 調査時の湿り湿、層界明瞭
第4層	4.5~	腐植欠く帯黄緑褐 (2.5 Y 4/4) の S、浮石礫含む。単粒状、酸化沈積物含む、ち密度 1.6 で疎、PH (H ₂ O) 6.2、調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重 量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 ρ	真比 重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.1		43.6	32.7	18.6	5.1	SL	1.22	2.36	5.46	0.43	12.7	9.1
2	23~45	5.3		38.2	23.3	29.0	9.5	L	1.28	2.44	4.96	0.34	14.6	8.1
3	45~	2.8		55.7	30.8	13.1	0.4	S	1.22	2.51				

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 取係数	有効態 磷 酸 me/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.9	6.8	19.6	8.8	0.4	0.1	4.5	8.26	1.5
2	6.1	5.0	2.9	26.2	6.6	0.3	0.1	2.5	16.57	1.1
3	6.2	5.4	0.4	8.4	2.2	0.2	0.1	2.6	8.84	0.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては越川統、豊里統があるがいずれも乾湿が異なるので区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩 (火山灰、火山礫)

A-4 堆積様式 風積 (火山性) / 水積 (河成)

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地(麦類、馬鈴薯)、草地である。

E 農業上の留意事項 深耕、排水完備、塩基の補給、磷酸増施。

F 分布 北海道斜里郡斜里町中斜里、川上の一部

調査及び記載責任者

宮 脇 忠(北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
羅 崩一羅 崩	III n II t d w f n a

② 土壌区別説明

羅 崩 統 一 羅 崩 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤 効 土	転 表 表 土	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	增 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土	土 の	の 風 の	肥 の	層 換 " " 効	害 理	冠 す	斜 為	然 為	水 風
産 力 の 層	の 土 の	の 乾 土	肥 定 塩	の 性 態 量	害 物 的	害 水 り	の 傾	の 傾	水 風
可 能 性	の 磔 粘 土 着 硬	水 水 潤	沃 基 状	石 苦 加 磷	質 障	の 害	危 險	傾 方	水 風
厚 深 含	難 土 着 硬	乾	沃 基 状	豊 灰 土 里 酸 要	の 害	有 無 性	危 險	傾 方	水 風
等 級	さ さ 量 易	性 性 度 湿	力 力 態 度	量 否	性 性 度 素 度	性 性 度 斜	度 度 斜	斜 向 斜	度 性 性 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
III	II II I I 1 1 (2)	II 1 1 2	II 2 2 2	III 1 3 3 3 1 2	I 1 1	II 2 1	I 1 --	I 1 1 1	
簡 略 分 級 式		III n II t d w f n a							

A 土壌区の特徴

この土壌区は羅崩統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は概ね1mで中庸である。表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。透水性大、保水性小であるが地下水位が高いためやや湿性を呈しており、一時的に過湿となることを示している。

保肥力中、固定力小、塩基状態中で自然肥沃度は中位である。養肥分については石灰多、加里少、

苦土少、磷酸少で酸度も中程度である。

特殊な障害性はないが、一時的に冠水するおそれがある。風水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 概ね畑地（麦類、馬鈴薯等）、草地となつている。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているので排水を完全なものにすること。一般に作土が浅く、かつ第2層は薄層ながら未風化の浮石層なので深耕することが望ましい。加里、苦土等の塩基や有効態の磷酸が極めて乏しいのでこれらの肥料をいづれも多めに施用する必要がある。

D 分布

北海道斜里郡斜里町中斜里、川上の一部

記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和45年3月31日

浜 小 清 水 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ5cm前後、粗腐植層、色は7.5 YRで明度2、彩度2~3、ち密度10以下で極疎、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ2cm前後で腐植を欠き土性はSLを主とする。色は7.5 YRで明度7~8、彩度1~2、構造は単粒状を呈する。ち密度15前後で疎、下層との境界は明瞭である。(Me-a)

第3層は厚さ7cm前後で腐植含量5~6%（第2層と混合）。土性はS（第2層と混合でLS）を主とする。色は7.5 YRで明度2~3、彩度1~2、構造は単粒状を呈し、ち密度は15前後で疎、第2層と混合したpH(H₂O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植含量2%内外、土性はSを主とする。色は7.5~10 YRで明度3~4、彩度3~4、構造は単粒状を呈する。ち密度15前後で疎。pH(H₂O)6前後、下層との境界は明瞭である。

第5層は厚さ2cm前後で腐植を欠く。土性はS~SLを主とする。色は10 YRで明度7~8、彩度1~2、構造は単粒状、ち密度は疎、下層との境界は判然である。(Km-1~4a)

第6層は厚さ8cm前後で腐植を欠く。土性はSで浮石の小礫含む。色は10 YRで明度7~8、彩度2~3、構造は単粒状を呈する。ち密度は12前後で疎、下層との境界は判然である。(Km-5a)

第7層は厚さ35cm前後で腐植を欠く。土性はSを主とする。色は10 YRで明度4~5、彩度6、構造は単粒状、ち密度15前後で疎、下層との境界は判然である。

第8層は概ね75cm以下で腐植を欠き土性はSを主とする。色は2.5 Yで明度5~6、彩度4~6、構造は単粒状、ち密度15前後で疎。

代表的断面形態

（所在地）斜里郡斜里町以久科北 試坑No.37

第1層	0~5cm	黒褐(7.5 YR 2/2)の粗腐植層、ち密度は10以下で極疎、層界明瞭
-----	-------	--------------------------------------

第2層	5～7	腐植欠く明褐灰(7.5YR7/1)のS、単粒状、ち密度15で疎、調査時の湿り乾、層界明瞭
第3層	7～14	腐植富む黒褐(7.5YR3/1)のS(第2層と混合でLS)、単粒状、ち密度15で疎、第2層と混合でpH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り乾、層界明瞭
第4層	14～30	腐植含む暗褐(7.5YR3/3)のS、単粒状、ち密度14で疎、pH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り乾、層界明瞭
第5層	30～32	腐植欠く鈍黄橙(10YR7/2)のS、単粒状、ち密度は疎、調査時の湿り乾、層界明瞭
第6層	32～40	腐植欠く浅黄橙(10YR8/3)のS、単粒状、ち密度12で疎、調査時の湿り乾、層界判然
第7層	40～75	腐植欠く褐(10YR4/6)のS、単粒状、ち密度16で疎、調査時の湿り乾、層界判然
第8層	75～	腐植欠く黄褐(2.5Y5/4)のS、単粒状、ち密度13で疎、調査時の湿り乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	直比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	1～14	1.8		73.4	16.2	6.7	3.7	LS	97	2.55	3.25	0.16	20.3	5.5
2	14～30	1.5		85.2	10.6	0.6	3.6	S	135	2.74	1.52	0.07	21.7	2.6

層位	pH		置換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰 飽和度 %	磷 吸収 係	有効 態 酸 度 me/100g
	H ₂ O	KGℓ			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.3	4.0	17.9	4.1	0.3	0.1	23	370	2.7
2	5.9	4.7	1.5	8.2	1.8	0.4	0.1	22	444	2.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統はない。

A-3 母材 非固結火成岩(火山灰、火山礫)、非固結水成岩(海砂)

A-4 堆積様式 風積(火山性)/風積、水積(海成)

B 地形 海岸沿いの狭長な段丘

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 防風保安林で一部に放牧地がある。

E 農業上の留意事項 有機物施用、塩基補給、適切な管理

F 分布 北海道斜里郡斜里町大栄、美咲、以久科北、朱円、峰浜の一部

調査及び記載責任者

宮 脇 忠(北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
浜小清水-浜小清水	III(w)fnIIe

② 土壌区別説明

浜小清水統-浜小清水区

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤効土	地透保濕	然保固土	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
生土	耘表表土	層	換" "効	害理	冠す	斜	為	水風
産土の	の土の	肥の	の性の	害物的	害水の	然為	の	蝕
力の層	のの風	水水潤	肥定塩	質障	のの	傾方	傾	蝕蝕
可能の	礫の乾	沃	基	の害	危危	斜向斜	蝕	蝕蝕
性厚	含難土の	乾	状	有無	險險	度度	度性性	度性性
等級	ささ量易	性性さ	力力態	性性	性性	斜向斜	度性性	度性性
	* d g p	w	f	n	i	a	s	e
Ⅲ	I I I I I I I (2)	Ⅲ 1 1 (3)	Ⅲ 2 1 3	Ⅲ 2 3 3 2 1 2	I 1 1	I 1 1	Ⅱ 2 --	Ⅱ 1 2 2
簡略分級式		Ⅲ(w) f n Ⅱ e						

A 土壤区の特徴

この土壤区は浜小清水統に属する。表土の厚さは30cm前後で深く、有効土層は概ね1.0m以上で深い。表土の土性は粗粒質で耕起、砕土は容易である。

透水性大、保水性小で過乾のおそれ大きい。

保肥力中、固定力ごく小、塩基状態不良で自然肥沃度は低位である。

養肥分については石灰中、苦土少、加里少、磷酸中で酸度は中程度である。

障害性、災害性はないが、風水蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況 一部放牧地のある防風保安林である。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用し、粘質土の客土によつて保水性を高めること、いづれの養分にも不足しているのて肥料を多めにし、また粒状固形肥料を使用するなど肥培管理に留意すること。放牧地は過放牧をつつしむこと。

D 分布 北海道斜里郡斜里町大栄、美咲、以久科北、朱円、峰浜の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

以 久 科 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量3%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度3~4、発達弱度の細粒状構造。ち密度1.5~2.0で疎~中、PH(H₂O)7前後、下層

との境界平坦判然である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量3%内外、土性はL~SLである。色は10YRで明度3~4、彩度3~4、構造は均質状を呈する。ち密度は25前後で密、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠く、土性はSLを主とする。色は10YRで明度5~6、彩度2~4、構造は単粒状を呈する。ち密度18前後で疎、PH(H₂O)7前後、下層との境界は平坦判然である。

第4層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はLを主とする。色は10YRで明度5~6、彩度3~4、発達中度の細粒状構造、細小孔頗る富む。ち密度16前後で疎、PH(H₂O)7前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は厚さ1cm前後で腐植を欠き、土性はSL(触感)である。色は10YRで明度7~8、彩度1~2、構造は単粒状を呈する。ち密度16前後で疎、下層との境界は平坦明瞭である。

(M-e-a)

第6層は厚さ10cm前後で腐植を含み(触感)土性はCL(触感)を主とする。色は10YRで明度3~4、彩度2~3、発達中度の細塊状構造と柱状構造、細孔含む、酸化沈積物含む、ち密度16前後で疎下層との境界は平坦明瞭である。

第7層は概ね80cm以下で腐植を欠き、土性はCL(触感)を主とする。色は10YRで明度6~7、彩度2~3、発達弱度の細塊状構造、細小孔に頗る富み、中孔に富む、酸化沈積物含む、ち密度16前後で疎。

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町以久科 試抗697

第1層	0~22	腐植含む褐(10YR 4/4)のSL、弱度の細粒状構造、ち密度15~20で疎~中、PH(H ₂ O)7.3 調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	22~28	腐植含む(触感)褐(10YR 4/4)のL(触感)、均質状を呈する。ち密度25で密、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第3層	28~48	腐植含む鈍黄橙(10YR 6/3)のSL、単粒状を呈する。ち密度18で疎、PH(H ₂ O)7.3 調査時の湿り半湿、層界判然。
第4層	48~68	腐植欠く鈍黄褐(10YR 5/4)のL、中度の細粒状構造、細小孔頗る富み、中孔富む、酸化沈積物あり、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)7.1 調査時の湿り半湿、層界明瞭
第5層	68~69	腐植欠く灰白(10YR 8/2)のSL、単粒状を呈する。ち密度16で疎、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第6層	69~79	腐植含む(触感)黒褐(10YR 3/2)のCL(触感)、中度の細塊状構造と柱状構造、細小孔含む、管状の酸化沈積物含む、ち密度16~17で疎、調査時の湿り湿、層界明瞭
第7層	79~	腐植欠く灰黄褐(10YR 6/2)のCL(触感)、弱度の細塊状構造、細小孔頗る富む、中孔富む、酸化沈積物含む、ち密度16~17で疎、調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	3.2		31.1	39.0	16.3	13.6	SL	116	2.65	1.51	0.058	26.0	2.6
2	28~48	3.6		9.5	68.3	14.2	8.0	SL	113	2.71	1.86	0.090	20.7	3.1
3	48~68	4.1		1.4	44.5	39.4	14.7	L	120	2.72	-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.3	6.4	0.1	26.5	24.5	0.3	0.7	92	768	15.1
2	7.3	6.1	0.1	25.5	23.1	0.3	0.7	90	826	4.3
3	7.1	5.9	0.3	31.1	26.0	1.8	0.4	83	992	3.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統として朱田統があるが50cm前後より礫層が出現するので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩（非固結火成岩混）

A-4 堆積様式 水積（河成）

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 畑地で馬鈴薯、てん菜等が栽培されている。

E 農業上の留意事項 有機物施用、苦土入り肥料の使用

F 分布 北海道斜里郡斜里町以久科、朱田の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
以久科-以久科	I

② 土壌区別説明

以久科統-以久科区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵			
壤 効 土	転表表	地透保	然保固	分置	有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐耐	
生 土	の 土 土	の 風 乾	肥 定 塩	の 性 態	有 害 物 的	害 理 冠	害 水 冠	斜 為	水 風	
産 力 的	の 層 礫	の 乾 粘 土	肥 定 塩	石 苦 加 磷	害 物 的	害 水 冠	害 水 冠	斜 為	水 風	
可 能 厚	の 層 礫	の 乾 粘 土	肥 定 塩	石 苦 加 磷	害 物 的	害 水 冠	害 水 冠	斜 為	水 風	
性 等 級	深 含 難 土 着 硬 性 性 易	乾 性 性 度 湿	沃 基 状 力 力 態	豐 含 量 否	有 害 無 性	危 險 度 度	危 險 度 度	傾 方 傾 斜 向 斜	蝕 蝕 度 性 性	
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
I	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 1	1 1 2 1	1 1 3 1 1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		
簡略分級式		I								

A 土壤区の特徴

この土壤区は以久科統に属する。表土の厚さは25～30cmで深く、有効土層は概ね1m以上で深い、表土の土性は中粒質で耕起、碎土は容易である。

透水性大、保水性中で過湿過乾のおそれは少ない。

保肥力大、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は高位である。

養分については苦土が少ないほかは他のいずれの養分も多く、酸度は中性である。特殊な障害性、災害性はなく、風水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 畑地で馬鈴薯、てん菜等が栽培されている。

C 地方保全上の問題点

特に問題点はないが、腐植が少ないので有機物を施用すること。苦土が少ないので燐燐等の苦土入り肥料を使用することが望ましく、またてん菜等の栽培には硼素欠乏が現われると思われるので硼砂等の使用が必要である。

D 分布 北海道斜里郡斜里町以久科、朱円の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

朱 円 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量6%内外、土性はL～SLである。色は10YRで明度2～3、彩度2～3、弱度の細粒状構造、ち密度1.5前後で疎、PH(H₂O)7前後、下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ20cm前後で腐植含量2%内外、土性はL～SLである。色は10YRで明度4～5、彩度3～4、弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.5前後で疎、PH(H₂O)7前後、下層との境界は平坦判然である。

第3層は厚さ20cm前後腐植を欠き、土性はSを主とする。色は10YRで明度5～6、彩度3～4、中円礫を含む、構造は単粒状を呈する。ち密度は疎、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は概ね60cm以下で中円礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町以久科 試坑No.95

層位	cm	腐植含む黒褐(10YR3/2)のSL、弱度の細粒状構造、ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)7.4、調査時の湿り乾、層界判然。
第1層	0～22	
第2層	22～40	腐植含む鈍黄褐(10YR4/3)のSL、弱度の細粒状構造、ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)7.0 調査時の湿り半乾、層界判然。
第3層	40～60	腐植欠く鈍黄褐(10YR5/3)のS、中円礫含む。単粒状、ち密度は疎、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第4層	60～	中円礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～22	3.3		30.7	35.6	20.5	13.2	S L	139	2.58	3.61	0.29	12.4	6.0
2	22～40	3.2		25.2	46.7	19.5	8.6	S L	125	2.71	1.54	0.15	10.3	2.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			飽和度 %	磷吸係	酸収数	有効態 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	7.4	7.0	0.3	34.1	37.6	0.3	0.6	110	797	20.2	
2	7.0	5.8	0.3	26.1	22.3	0.8	0.6	85	826	3.0	

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては以久科統があるが礫が存在しないので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩、非固結火成岩等

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 畑地で馬鈴薯、てん菜、麦類が栽培されている。

E 農業上の留意事項 施肥の合理化

F 分布

北海道斜里郡斜里町以久科、朱円の一部

調査及び記載責任者

宮 脇 忠(北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
朱 円-朱 円	II d(w)

② 土壌区別説明

朱 円 統-朱 円 区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤効土	転表表	地透保	然保固	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
生土	の土の	の風の	肥の性	層換	態量	害理的	冠す	斜為	水風
産土	の土の	の水潤	肥定塩	の性	態量	害物的	害水	然為	水風
力の層	の土の	の乾	沃	の性	態量	質障	のの	の	水風
可能厚	の深	粘土の	基	石苦加	灰土里	の害	危危	傾方	蝕蝕
性厚	深	難土着	状	豊含	量	有無	險險	傾方	蝕蝕
等級	ささ	量易	性性	力力	態量	性性	度度	斜斜	度性
級	ささ	量易	性性	力力	態量	性性	度度	斜斜	度性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	I II I I I I I	(II) 1 2 (2)	I 1 2 1	I 1 3 1 1 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 --	I 1 1 1	
簡略分級式	II d(w)								

A 土壤区の特徴

この土壤区は朱円統に属する。表土の厚さは40cm前後で深く、有効土層は概ね60cmで中庸、表土の土性は中粒質で耕起、碎土は容易である。

透水性大、保水性中で一時的に過乾のおそれがある。

肥力大、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は高い。

養分については苦土が少ないが他はいずれも多い。酸度は中性である。

特殊な障害性、災害性はなく、風水蝕のおそれは少ないと思われる。

B 植生及び利用状況 畑地で馬鈴薯、てん菜、麦類が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

特に問題点はないが、苦土が少ないので苦土入り肥料を使用すること。また比較的pHが高くてん菜栽培の際に硼素欠乏が現われやすいので硼素入り肥料を使用することが望ましい。

D 分布

北海道斜里郡斜里町以久科、朱円の一部

記載責任者 宮脇 忠 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和45年3月31日

川 上 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量4~5%、土性はL~SLである。色は10YRで明度3~4、彩度2~3、発達弱度の細粒状構造、ち密度15前後で疎、pH(H₂O)6.5~7.0、下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ30cm前後で腐植含量2~3%、土性はL~SLである。色は10YRで明度5~6、彩度3~4、発達弱度の細塊状構造、細孔富む、酸化沈積物含む。ち密度20前後で中、pH(H₂O)6.5前後、下層との境界は平坦明瞭である。(なお本層の下部2cmの厚さで酸化沈積物の集積層がある。)

第3層は概ね50cm以下で腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで明度5~6、彩度1~2、単粒状を呈する。管状の酸化沈積物あり、ち密度15前後で疎、pH(H₂O)6~6.5。

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町川上 試坑№87

第1層	0~20cm	腐植含む灰黄褐(10YR4/2)のSL、弱度の細粒状構造、ち密度17で疎、pH(H ₂ O)6.7、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	20~45	腐植含む鈍黄褐(10YR5/4)のL、弱度の細塊状構造、細孔富む。酸化沈積物を含み、かつ次層との層界に集積層がある。ち密度19で中、pH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第3層	45~	腐植欠く灰黄褐(10YR5/2)のLS、単粒状、酸化沈積物含む。ち密度15で疎、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粗径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	2.4		9.7	61.5	22.2	6.6	SL	127	2.56	2.30	0.22	10.5	3.9
2	20~45	2.6		7.4	43.9	44.2	4.5	L	112	2.66	1.84	0.17	10.8	3.1
3	45~	1.2		13.7	74.1	10.2	2.0	LS	125	2.59	-	-	-	-

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			飽和度 %	磷酸係	磷酸収数	有効態 磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	6.7	5.9	0.3	18.3	14.3	0.4	0.3	78	588	6.8	
2	6.5	5.5	0.3	16.0	12.8	0.4	0.1	80	939	0.7	
3	6.3	5.0	0.3	7.1	2.8	0.3	0.1	39	372	1.2	

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する土壌統としては羅蒨統、豊倉統、美咲統があるが、羅蒨統は堆積様式を異にし、豊倉統、美咲統は表土の土性を異にし、かつ強い湿性を呈するので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩、非固結火成岩等

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 畑地で麦類、てん菜、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項 有機物施用、塩基の補給、磷酸増施

F 分布

北海道斜里郡斜里町川上の一部

調査及び記載責任者

宮 脇 忠(北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和45年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
川上一川上	II t d f n

② 土壤区別説明

川上区一川上統

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤効土	転表表	地透保	然保固	分置	有微酸	有物	増地	自傾入	侵耐
生土	土の	土の	層	換	効	害理	冠す	斜	水風
産の	の	の	の	の	の	害物的	害水	然	為
力層	の	の	の	の	の	害障	の	の	水風
可能	の	の	の	の	の	の	の	の	蝕
厚深	含	粘土	沃	基	豊	有	危	傾	蝕
等級	さ	性	性	力	量	無	險	斜	性
	量	性	度	力	量	性	度	斜	性
	易	湿	度	態	否	性	性	斜	蝕
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
II	II II I I I I I	II 1 3 1	II 2 1 1	II 1 3 2 2 1 1		I 1 1	I 1 1	I 1 --	I 1 1 1
簡略分級式		II t d f n							

A 土壤区の特徴

この土壤区は川上統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は概ね50cm前後で中庸である。表土の土性は中粒質で耕起・砕土は容易である。

透水性大、保水性小で、過湿過乾のおそれは少ないが、所により過乾に傾き、また周囲が湿性を呈する土壤のために過湿になりやすいこともある。

保肥力中、固定力ごく小、塩基状態良好で自然肥沃度は中位である養肥分では石灰多、苦土少、加里中、磷酸中で酸度は弱い。

障害性、災害性はなく、風水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 畑地で麦類、馬鈴薯、てん菜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 腐植が少ないので有機物を施用すること。また苦土、加里等の塩基や磷酸等が不足気味であるからこれらの肥料を増施すること。

D 分布 北海道斜里町川上の一部

記載責任者 官 脇 忠(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

美 咲 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量5~6%、土性はL~CLである。色は7.5YRで明度3~4、彩度2~3、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.0以下で極疎、pH(H₂O) 6.5前後、下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ20cm前後で腐植含量2%以下、土性はL~CLである。色は1.0YR~2.5Yで明度5~6、彩度2~3、発達弱度の塊状構造、細孔を含む、斑状と管状の酸化沈積物に富む、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O) 6前後、下層との境界は平坦判然である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、浮石礫を主とする礫を主とする礫土、礫間にSLを狭在する。色は2.5Yで明度5~6、彩度1~2、構造は単粒状を呈し、管状の酸化沈積物を含む。下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は概ね5.5cm以下で腐植を欠き、SLとCLの互層となつているが、土性はSiLを主とする。色は2.5Yで明度5~6、彩度1~2、構造は単粒状のものと均質状を呈するものが混在し管状の酸化沈積物を含む。ち密度1.8前後で疎、pH(H₂O) 5.5前後。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 斜里郡斜里町美咲 試坑No. 92

第1層	0~17cm	腐植富む鈍黄褐(7.5YR 4/3)のSiCL、弱度の細粒状構造、ち密度8で極疎、pH(H ₂ O) 6.5、調査時の湿り乾、層界判断
第2層	17~40	腐植欠く灰黄(2.5Y 6/2)のSiL、弱度の塊状構造、細孔含む、斑状と管状の酸化沈積物富む、ち密度2.1で中、pH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り半湿、層界判然
第3層	40~55	腐植欠く黄灰(2.5Y 5/1)のS~SL(触感)を狭む浮石の中礫よりなる礫層、管状の酸化沈積物含む、調査時の湿り湿、層界明瞭
第4層	55~	腐植欠く黄灰(2.5Y 5/1)のSiL、SLとCLの互層、単粒状と均質状を呈する。管状の酸化沈積物含む、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 %	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	4.3		4.0	23.3	52.1	2.0.6	SiCL	1.14	2.48	4.99	0.420	11.9	8.6
2	17~40	2.8		0.1	19.4	70.4	1.0.1	SiL	1.46	2.68	1.02	0.150	6.8	1.7
3	55~	1.5		0.4	34.0	56.7	8.9	SiL	1.62					

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	6.1	0.3	32.4	23.8	2.6	0.4	73	884	7.7
2	6.1	4.9	0.4	18.1	8.1	0.4	0.1	45	768	0.7
3	5.6	4.6	1.4	12.4	5.5	0.4	0.1	44	372	1.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する土壌統としては以久科統、豊倉統、川上統があるが以久科統とは乾湿を異にし、豊倉統は下層に泥炭が出現し、また川上統とは、表土の土性と湿性の程度を異にするので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(主材)

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 畑地(麦類、豆類、馬鈴薯等)とクローバー等の生育する採草地

E 農業上の留意事項 排水の完備、深耕

F 分布 北海道斜里郡斜里町美咲、川上、以久科の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
美 咲 - 美 咲	III d II t w i a

② 土壌区別説明

美 咲 統 - 美 咲 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤 効 土	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土 土	転 表 表 土	層 換	の 性 態	効 量	害 理	冠 す	斜 為	水 風
産 土 の	の 土 土	の 肥 定 塩	石 苦 加 磷	質 障	害 水 的	害 水 的	然 為	水 風
力 の 層	の 乾 土	沃 基 状	豊 灰 土 里 酸 要	の 害	質 障	の 危 險	の 傾 方	の 蝕 蝕
可 能 性	の 礫 含 難 土 着 硬 性 性 性	性 性 度	力 力 態	無 性	の 害	の 危 險	の 傾 方	の 蝕 蝕
厚 深	含 難 土 着 硬 性 性 性	性 性 度	力 力 態	無 性	の 害	の 危 險	の 傾 方	の 蝕 蝕
等 級	さ さ 量 易	性 性 度	力 力 態	無 性	の 害	の 危 險	の 傾 方	の 蝕 蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
	III II III I I 1 2 1	II 2 2 2	I 1 2 1	I 1 1 2 2 1 1	II 1 2	II 2 1	I 1 --	I 1 1 1
簡 略 分 級 式		III d II t w i a						

A 土壤区の特徴

この土壤区は美咲統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層40cm前後で浅い、表土性は中粒質で耕起・砕土は容易である。

透水性、保水性とも中で泥炭地が近いためか地下水位の影響で弱い湿性を呈しており過湿のおそれがある。

保肥力大、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は高位である。美肥分については石灰多、苦土多、加里中、磷酸中、酸度は弱い。

浮石礫層が障害となっており、集中豪雨時には一時的に冠水するおそれがある。

風水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 畑地及び採草地として利用され、麦類、豆類、馬鈴薯、クロバー等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 まず排水を完全にすること。作土が浅めなので深耕することが望ましい。深耕の場合は加里と磷酸を増施する必要がある。

D 分布 北海道斜里郡斜里町美咲、川上、以久科の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

豊 倉 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量5%内外、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度

3～4、彩度3、発達弱度～中度の細粒状構造、ち密度1.5前後で疎、pH(H₂O) 6前後、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ3.0cm前後で腐植を欠く、土性はSiCLを主とする。色は1.0YRで明度5～6、彩度3～4、発達強度の細塊状構造、細小孔に頗る富む、酸化沈積物を含む、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O) 6前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ5cm前後で腐植に富む、土性はC(触感)を主とする。色は7.5YRで明度3～4、彩度1～2、発達強度の細塊状構造と、柱状構造で細小孔を含む、酸化沈積物を含む、ち密度1.7前後で疎、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ1.0cm前後で腐植を欠く浮石砂礫層、色は1.0YRで明度7～8、彩度1～2、構造は単粒状を呈する。ち密度は疎、下層との境界は平坦明瞭である。(Km-5a)

第5層は厚さ2.0cm前後でヨシ、ハンノキを主材とする低位泥炭、色は5YRで明度2～3、彩度2～3、分解度はH5でやや良好である。ち密度は疎、下層との境界は平坦明瞭である。

第6層は概ね8.5cm以下でヨシを主材とする低位泥炭に土性C(触感)の泥土が混入する亜泥炭、色は1.0YRで明度4～5、彩度1～2、均質状を呈する。ち密度は疎である。

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町豊倉 試坑No.99B

第1層	0～2.0cm	腐植含む鈍黄褐(1.0YR4/3)のLiC、中度の細粒状構造、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O) 6.1調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	2.0～5.0	腐植欠く鈍黄橙(1.0YR6/3)のSiCL、強度の細塊状構造、細小孔頗る富む、酸化沈積物含む、ち密度1.9で中、pH(H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第3層	5.0～5.5	腐植富む黒褐(1.0YR3/1)のC(触感)、強度の細塊状構造と柱状構造、細孔含む、酸化沈積物含む、ち密度1.7で疎、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第4層	5.5～6.3	腐植欠く鈍黄橙(1.0YR7/2)のS、浮石の小礫含む、単粒状、ち密度は疎、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第5層	6.3～8.5	黒褐(5YR2/2)のヨシ、ハンノキを主材とする低位泥炭、H5で分解やや良、ち密度は疎、調査時の湿りは潤、層界明瞭
第6層	8.5～	黒褐(1.0YR2/2)のヨシを主材とする低位泥炭に土性C(触感)の泥土を混入する亜泥炭、均質状、ち密度は疎、調査時の湿りは潤

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粗径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～2.0	4.5		6.4	28.1	39.5	26.0	LiC	1.07	2.64	3.14	0.31	10.1	5.6
2	2.0～5.0	5.1		2.8	26.0	48.4	22.9	SiCL	1.23	2.73				

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.1	0.5	37.0	25.3	1.1	0.5	68	992	5.8
2	5.9	4.6	1.3	36.9	21.6	1.8	0.3	59	1145	2.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する土壌統としては美咲統、川上統があるが美咲統は土層内に泥炭なく、川上統とは表土の土性と湿性の程度が異なるので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩、非固結火成岩等/ヨシ等

A-4 堆積様式 水積(河成)/集積

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 畑地でにんじん、てん菜、麦類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項 排水完備、塩基の補給

F 分布 北海道斜里郡斜里町、豊倉、川上、中斜里の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
豊 倉 一 豊 倉	II t p w n a

② 土壌区別説明

豊 倉 統 - 豊 倉 区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤効土	耘表表	地透保	然保固	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
生土	土の	土の	層	換	効	害理	冠す	斜為	水風
産土	の土	の乾	肥の	の性	態量	害物的	害水の	然の	蝕蝕
力	の層	の粘	沃	基	豊	質障	危危	傾方	蝕蝕
可	の磔	土着	度	状	含	の害	険険	斜向斜	蝕蝕
能	の厚	難	性	力	量	有無	度度	斜向斜	蝕蝕
性	深	土性	性	力	量	性	度度	斜向斜	蝕蝕
等	さ	性	性	力	量	性	度度	斜向斜	蝕蝕
級	さ	易	度	力	量	性	度度	斜向斜	蝕蝕
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
II	II I I II 3 2 2	II 2 1 3	I 1 2 1	II 1 2 2 2 1 1		I 1 1	II 2 1	I 1 --	I 1 1 1
簡略分級式		II t p w n a							

A 土壤区の特徴

この土壤区は豊倉統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は1m以上で深い、表土の土性は微粒質で粘着性中～やや強く、耕起・砕土はやや困難である。透水性中、保水性大で、一時的に過湿となることがある。

保肥力大、固定力小、塩基状態概ね良好で自然肥沃度は高位に属する。養肥分については石灰多、苦土中、加里中、磷酸中で酸度は弱い、障害性はないが豪雨による冠水のおそれがある。

B 植生及び利用状況 畑地でにんじん、てん菜、麦類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 下層に泥炭が存在し、湿性を呈しているため排水の設備を完全なものにすること。また、苦土、加里等は不足しやすいのでこれらの施肥には充分留意することが望ましい。

D 分布 北海道斜里郡斜里町豊倉、川上、中斜里の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

朱 円 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量8%内外、土性はL~CLである。色は10YRで明度2~3彩度2~3、発達弱度の細粒状構造、ち密度2.5前後で密、pH(H₂O)6.5前後、下層との境界は平坦で明瞭である。(Me-a、Km-5a混)

第2層は厚さ15cm前後で腐植を欠く、土性はL~CLである。色は10YRで明度5~7、彩度2~3、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、酸化沈積物を含む、ち密度1.7前後で疎、

pH(H₂O)6.5 ~ 7.0、下層との境界は平坦判然である。

才3層は厚さ25cm前後で腐植を欠く、土性はSLを主とする。色は10YRで明度6~7、彩度1~3構造は単粒状を呈する。酸化沈積物を含む、ち密度13前後で疎、下層との境界は平坦判然である。(Km-5a混)

才4層は概ね60cm以下で腐植を欠く、土性はCLを主とする。色は10YRで明度5~7、彩度1~2、構造は均質状を呈する。酸化沈積物に富む、ち密度は20前後で中、

代表的断面形態

(所在地) 斜里郡斜里町朱円西 試坑No 97C

才1層	0~20cm	腐植富む黒褐(10YR2/3)のCL、弱度の細粒状構造、ち密度25で密、PH(H ₂ O)6.4層界明瞭
才2層	20~35	腐植欠く鈍黄橙(10YR6/3)のL、弱度の細塊状構造、細小孔含む、酸化沈積物含む、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)6.8層界判然。
才3層	35~60	腐植欠く鈍黄橙(10YR7/2)のSL(触感)、単粒状、酸化沈積物含む、ち密度15で疎、層界判然。
才4層	60~	腐植欠く灰黄褐(10YR6/2)のCL(触感)、均質状、酸化沈積物富む、ち密度は中。

代表的断面の分析成績

層位	彩取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.3		33.1	23.7	25.5	17.7	CL		2.50	5.01	0.43	11.2	8.3
2	20~35	4.9		13.8	45.7	26.0	14.5	L		2.75	1.05	0.10	10.5	1.7

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.5	0.3	40.6	30.2	2.8	0.4	74	1818	10.3
2	6.8	5.3	0.3	33.8	23.4	2.7	0.7	69	992	2.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する土壌統としては以久科統、斜里統があるが以久科統とは乾湿、斜里統とは堆積様式を異にするのでそれぞれ区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩(主)

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地 形 低平地

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地、放牧地である。

E 農業上の留意事項 排水の完備、深耕

F 分 布 北海道斜里郡斜里町朱円の一部
 調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
 年 月 日 昭和45年3月31日

- (2) 土壤統の細分
 ① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
朱円西-朱円西	II t w f

- ② 土壤区別説明

朱円西統 - 朱円西区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵																															
効 土	転 表 表 土	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 入	侵 耐 耐																													
生 土	の 土 土 土	の 風 乾 水 水 潤	肥 定 塩	層 換 " " 効	有 害 物 的 質 障	害 水 冠 す べ り の の	然 為 の	斜 傾	水 風 蝕																													
産 土	の 粘 土 着 硬	乾 性 性 度	沃 基 状	石 苦 加 磷	灰 土 里 酸 要	危 危 險 險	傾 方 傾	蝕 蝕	蝕 蝕																													
力 的 層	の 難 土 着 硬	性 性 度	力 力 態	豊 含 " " "	素 度	無 性 性	斜 向 斜	度 性 性	度 性 性																													
可 能 厚 性 等 級	の 深 含 量 易	性 性 度 湿	度 度	否	性 性	性 性	斜 向 斜	蝕 蝕	度 性 性																													
t d g p	w	f	n	i	a	s	e																															
II	II	I	I	I	2	1	1	II	2	2	II	1	3	1	I	1	1	2	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1
簡 略 分 級 式		II t w f																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は朱円西統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は概ね1m以上で深い、表土の土性は細粒質で粘着性弱く耕起、砕土は比較的容易である。透水性、保水性ともに中庸で湿性を呈しており一時的に過湿となるおそれがある。

保肥力大、固定力中、塩基状態良好で自然肥沃度は中位である。養肥分については石灰多、苦土多、加里中、磷酸多で酸度は弱い。特殊な障害性、災害性はなく風水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地、放牧地である。畑地は麦類、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 まず湿性を呈しているので排水の設備を完全にすることが望ましい、また一般に畑地では作土層が浅いので深耕をする必要がある。

D 分 布 北海道斜里郡斜里町朱円の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭和45年3月31日

真 鯉 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

才1層は厚さ20cm前後で腐植含量8%内外、砂岩、安山岩の硬い中円礫に富み、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2~3、構造は発達中度の細粒状構造である。ち密度は中、PH(H₂O)6前後、下層との境界は明瞭である。

才2層は概ね20cm以下で砂岩、安山岩の中円礫よりなる礫層で礫間に比性CL(触感)を充填する。色は10YRで明度3~5、彩度4~6。ち密度密~極密である。

代表的断面形態

(所在地)斜里郡斜里町真鯉 試坑No. 200

才1層	0~20cm	腐植含む黒褐(10YR2/3)のLiC、中円礫富む、中度の細粒状構造、ち密度は中、PH(H ₂ O)5.9。層界明瞭。
才2層	20~	中円礫よりなる礫層、礫間に腐植含む暗褐(10YR3/4)のCL(触感)を充填する。

代表的断面の分析成績

層位	彩取部 位 cm	水分 % 重量%	礫含量 % 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~20	4.2		12.6	19.9	33.6	33.9	LiC		2.57	4.90	0.49	10.0	8.1

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.0	0.5	33.3	20.1	6.0	0.4	60	645	1.0

A-2 他の土壤統との関係

本統に類似する土壤統はない。

A-3 母 材 半固結水成岩、固結火成岩

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地 形 低平地

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 放牧地となつている。

E 農業上の留意事項 磷酸属施

F 分 布 北海道斜里郡斜里町真鯉

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
真鯉一真鯉	III di II t gpn

② 土壤区別説明

真鯉統一真鯉区

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤	効土	地透保湿	然保固土	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
生土	耘表表土	ののの	層換	有微酸	害理的	害水	冠す	斜	水風
産土	ののの	水水濁	肥のの	性態量	害物的	害水の	然為	斜	水風
力の層	ののの	乾	肥定塩	石苦加磷	質障	のの	危危	傾方傾	蝕蝕
可能	の礫	乾	沃基	豊灰土里酸要	の害	危危	傾方傾	蝕蝕	蝕蝕
性厚	深含	粘土着硬	状	含" " "	無性	險險	斜斜	蝕蝕	蝕蝕
等級	ささ量	易	湿	力力態	否	性性	斜斜	蝕蝕	蝕蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	III II III II II 3 2 1	I 1 2 1	I 1 1 1	II 1 1 2 3 1 2	III 1 3	I 1 1	I 1 --	I 1 1 1	
簡略分級式		III di II t gpn							

A 土壤区の特徴

この土壤区は真鯉統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は20cm前後で極めて浅い、表土の土性は微粒質で礫多く、耕起、碎土はやや困難である。

透水性大、保水性中で過湿、過乾のおそれは少ない、保肥力大、固定力ごく小、塩基状態良好で自然肥沃度は高位である。養肥分では石灰多、苦土多、加里中、磷酸少で酸度は中程度である。次層以下礫層で障害となり、災害性はなく、風水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 放牧地となっている。

C 地力保全上の問題点

磷酸が不足しているため多施をすることが必要である。また地表面に現われている石礫の大きなものは極力除くことが望ましい。

D 分布 北海道斜里郡斜里町真鯉

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

斜 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15cm前後で腐植土である。色は5YRで明度2、彩度1~2、発達極めて弱度の細粒状構造、ち密度17前後で疎、 $P^H(H_2O)$ 6前後、下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15cm前後で、ヨシ、ハンノキを主構成植物とする低位泥炭、色は5YRで明度2~3、彩度2~3、分解度はH5でやや良である。ち密度15前後で疎、 $P^H(H_2O)$ 4.5前後、下層との境界平坦明瞭である。

オ3層は厚さ2cmで腐植を欠く、土性はSL~Sである。色は10YRで明度6~7、彩度1~2、構造は単粒状を呈する。ち密度20前後で中、下層との境界は平坦明瞭である。(Me-a)

オ4層は厚さ1cm前後で腐植を欠く、土性はSL~Sである。色は7.5YRで明度7~8、彩度2~3、構造は単粒状を呈する。ち密度17前後で疎、下層との境界は平坦明瞭である。(Km-1~4a)

オ5層は厚さ10cm前後で腐植を欠く、土性はSを主とする。浮石の小礫を含む、色は10YRで明度7~8、彩度2~3、構造は単粒状を呈する。ち密度12前後で疎、 $P^H(H_2O)$ 5~5.5下層との境界は平坦明瞭である。(Km-5a)

オ6層は厚さ30cm前後でヨシを主とし、ハンノキを含む低位泥炭、色は7.5YRで明度1~2彩度1~2、分解H7~8で良好である。ち密度10以下で極疎、 $P^H(H_2O)$ 4~4.5、下層との境界は平坦明瞭である。

オ7層は厚さ15cm前後でヨシを主とし、ハンノキを含む低位泥炭、色は7.5YRで明度1~2彩度1~2、 H_3 で分解不良、ち密度10以下で極疎、下層との境界は平坦明瞭である。

オ8層は概ね85cm以下でヨシを主とし、ハンノキを含む低位泥炭、色は10YRで明度1~2彩度1、 H_3 で分解不良、ち密度10以下で極疎。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 斜里郡斜里町美咲 試坑No. LP

オ1層	0~13cm	黒褐(5YR 2/2)のH、極弱度の細粒状構造、ち密度17で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.9、調査時の湿り半湿、層界明瞭
オ2層	13~30	暗赤褐(5YR 3/2)のヨシ、ハンノキを主とする低位泥炭、 H_5 で分解やや良、ち密度15で疎、 $P^H(H_2O)$ 4.6、調査時の湿り湿、層界明瞭。
オ3層	30~32	腐植欠く灰黄褐(10YR 6/2)のSL(触感)、単粒状、ち密度22で中、調査時の湿り湿、層界明瞭
オ4層	32~33	腐植欠く鈍橙(7.5YR 7/3)のSL(触感)、単粒状、ち密度17で疎、調査時の湿り湿、層界明瞭
オ5層	33~43	腐植欠く鈍黄(10YR 7/3)のS、浮石小礫含む、単粒状ち密度12で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.3、調査時の湿り湿、層界明瞭
オ6層	43~70	黒(7.5YR 2/1)のヨシを主としハンノキ含む低位泥炭、H7~8で分解良、ち密度8で極疎、 $P^H(H_2O)$ 4.2、調査時湿り潤、層界明瞭。

才 7 層	70~85	黒褐 (7.5 Y R 2 / 2) のヨシを主とし、ハンノキ含む低位泥炭、 H ₃ で分解不良、ち密度で極疎、調査時の湿り潤、層界明瞭。
才 8 層	85~100	黒 (1.0 Y R 2 / 1) のヨシを主としハンノキ含む低位泥炭、H ₃ で分解不良、ち密度は極疎、調査時の湿り潤、層界明瞭。
才 9 層	100~	暗褐 (7.5 Y R 3 / 3) のヨシ、ハンノキよりなる低位泥炭、H ₄ で分解や良~不良、ち密度は極疎、調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素 率	腐植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~13	8.1		—	—	—	—	H	80	2.04	24.48	1.61	15.2	38.7
2	13~30	11.0		—	—	—	—	L P	90	1.56	56.74	2.13	26.7	86.9
3	33~43	8.9		89.7	3.9	4.3	2.1	S	105	2.67	12.0	0.09	13.3	1.9
4	43~70	9.6		—	—	—	—	L P	86	1.68	38.16	2.45	15.6	59.3

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.5	0.5	6.21	5.10	0.4	0.2	82	768	9.9
2	4.6	4.5	3.0	9.67	3.30	0.7	0.3	34	876	0.5
3	5.3	4.5	2.5	5.1	0.7	0.2	0.1	13	40	2.6
4	4.2	3.9	2.60	8.89	1.25	0.7	0.2	14	1835	0.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては中斜里統があるが構成植物を異にする中間泥炭のための本統とは区別される。

A-3 母 材 ヨシ、ハンノキ等

A-4 堆積様式 集積 (低位泥炭)

B 地 形 低平地

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 概ね、にんじん、麦類、馬鈴薯等の栽培されている畑地と、採草地

E 農業上の留意事項 排水完備、塩基の補給、砂質土壌の客土

F 分 布 北海道斜里郡斜里町、大栄、美咲、中斜里、豊倉、以久科、峰浜の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土 壌 区 一 覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
斜 里 - 斜 里	lwnlfa

② 土壤区別説明

斜里統一斜里区

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																												
壤	効土	地透保湿	然保固土	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐																										
生土	土の	土の	層	換	効	害理	冠す	斜為	水風																										
産の層	の	の	の	の	の	害物的	害水の	然の	蝕																										
力の層	の	の	の	の	の	質障	のの	傾方	蝕																										
可能厚	の	粘土	肥定塩	石苦加	磷	の害	危危	傾方	蝕																										
性深	含	難土着硬	沃基	豊含	灰土里酸	有無	險險	斜向斜	蝕																										
等級	さ	量	易	性	性	性	性	斜向斜	蝕																										
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
Ⅲ	I	I	I	I	1	1	2	Ⅲ	2	1	3	Ⅱ	1	2	3	Ⅲ	1	3	3	2	2	2	I	1	1	Ⅱ	2	1	I	1	—	I	1	1	1
簡略分級式		ⅢwnⅡfa																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は斜里統に属する。表土の厚さは30cm前後で深く有効土層1m以上で深い表土の土性は細粒質であるが粘着性弱く耕起砕土は容易である。

透水性中庸、保水性大で過湿のおそれ大きい。

保肥力大、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中位である。養肥分では石灰多、苦土少、加里少磷酸中庸で表土の酸度中庸であるが次層は強酸性を呈する。障害性はないが一時的に冠水するおそれがある。

B 植生及び利用状況 概ねにんじん、麦類、馬鈴薯等の栽培されている畑地や採草地となっている。

C 地力保全上の問題点

泥炭地のため過湿地であるが一部排水設備が整い、生産をあげている現状で今後も更に組織的な排水工事をしない泥炭地改良をする必要があり、砂質土壤の客土も望ましい。苦土、加里等の塩基に乏しいので増施すること。

D 分布 北海道斜里郡斜里町、大栄、美咲、中斜里、豊倉、以久科、峰浜の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

大 栄 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量20%内外、土性はLを主とする。色は10YRで明度1~2、彩度1~2、発達弱度の細粒状構造でち密度15前後で疎、 $P^H(H_2O)$ 5前後、下層との境界は明瞭である。(Me-a混)

第2層は厚さ15cm前後でヨシを主とする低位泥炭、色は10YRで明度1、彩度1、分解は良、ち密度10前後で疎~極疎、 $P^H(H_2O)$ 5前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ10cm前後で腐植を欠き、土性はSを主とし、浮石の小礫を含む、色は10YRで明度7~8、彩度1~2、構造は単粒状を呈する。ち密度15前後で疎、下層との境界は明瞭である。(Km-5a)

第4層は厚さ10cm前後でヨシを主とする低位泥炭、色は10YRで明度1、彩度1、分解は良、土性はCL(触感)の泥土を混入する。ち密度10以下で極疎、下層との境界は判然である。

第5層は厚さ20cm前後でヨシ泥炭に富み、土性はCL(触感)を主とする。色は10YRで明度2~3、彩度1、構造は無構造で均質状を呈する。ち密度は10以下で極疎、下層との境界は判然である。

第6層は概ね75cm以下で腐植を欠き、土性はCL(触感)を呈する。色は10YRで明度4~5、彩度1~2、構造は無構造で均質状を呈する。ち密度10以下で極疎。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 斜里郡斜里町大栄 試坑No.99D

第 1 層	0~20cm	腐植頗る富む黒(10YR 2/1)のL、弱度の細粒状構造、ち密度15で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.1、調査時の湿り半湿、層界明瞭。
第 2 層	20~35cm	黒(10YR 1/1)のヨシを主材とする低位泥炭、H9で分解良、ち密度12で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.2、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第 3 層	35~42cm	腐植欠く灰色(10YR 7/1)のS、浮石小礫含む、単粒状、ち密度15で疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第 4 層	42~52cm	黒(10YR 1/1)のヨシを主材とする低位泥炭、H10で分解良、触感でCLの泥土を混入する、ち密度7~極疎、調査時の湿り潤、層界判然。
第 5 層	52~75cm	ヨシ泥炭に富む黒(10YR 2/1)のCL、均質状、ち密度9で極疎、調査時の湿り潤、層界判然。
第 6 層	75~	腐植欠く褐灰(10YR 4/1)のCL、酸化沈積物含む。ち密度7で極疎、調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地 容積 重	真比重	全炭 素 %	全窒 素 %	炭素 率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	5.7		16.1	35.1	34.6	14.2	L		2.13	15.90	1.19	13.4	25.8
2	20~37	7.5		(22.2)	30.8	26.7	20.3	(CL) LP		2.04	21.62	1.32	16.4	34.4

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燃 酸 吸 収 係 数	有効態 燃 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.1	4.8	0.5	58.4	28.6	0.4	0.1	49	2452	2.5
2	5.2	4.7	3.1	80.4	37.9	0.6	0.1	47	580	0.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては斜里統があるが、本統は台地に存在し、かつ下層に鈹質土壌が出現するので区別される。

A-3 母 材 ヨシ等、非固結火成岩

A-4 堆積様式 集積（低位泥炭）、風積

B 地 形 台地の末端部

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 畑地で麦類、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項 排水、塩基の補給

F 分 布 北海道斜里郡斜里町大栄の一部

調査及び記載責任者 官 脇 忠（北海道立中央農業試験場）
年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
大 栄 - 大 栄	llw llfna

② 土壌区別説明

大 栄 統 - 大 栄 区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																												
壤効土	耘表表	地透保	然保固	分置	有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐																										
生土	土の	土の	層	換" "	効	害理	冠す	斜為	水風																										
産の	の	の	肥の	の性	態量	害物的	害水	然為	水風																										
力層	の	の	水水潤	肥定塩	石苦加	質障	害の	の	蝕																										
可の	の	の	乾	沃	基	の害	危危	傾方	蝕蝕																										
能厚	含	難土	乾	沃	基	の害	危危	傾方	蝕蝕																										
性深	性	性	性	力	力	無性	險度	斜向斜	度性																										
等級	さ	量	易	度	度	性	性	斜	蝕																										
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
■	I	I	I	I	1	1	(2)	■	2	1	3	■	1	4	2	■	1	3	3	2	1	2	I	1	1	■	2	1	I	1	—	I	1	1	1
簡略分級式		III w II f n a																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は大栄統に属する。表土の厚さは35cm前後で深く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起砕土は容易である。

透水性中、保水性大で過湿となつている。

保肥力大、固定力大、塩基状態中で自然肥沃度は中位である。

養肥分は石灰多、苦土少、加里少、磷酸中で酸度は中程度である。

障害性はないが冠水するおそれがある。

B 植生及び利用状況 畑地で麦類、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

排水を完全にすること。それには隣接する土壤統との関連において実施すること。

苦土、加里等の塩基に乏しいので、これらの肥料を増施することが望ましい。

D 分 布 北海道斜里郡斜里町大栄の一部

記載責任者

宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付

昭和45年3月31日

中 斜 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量10%前後、土性はLを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度3、発達弱度の細粒状構造、ち密度2.0前後で中、PH(H₂O)6.5前後、下層との境

界は明瞭である。

第2層は厚さ7cm前後で腐植を欠き、土性はSを主とする、浮石の小礫含む、色は10YRで明度6~8、彩度3~6、構造は単粒状を呈する。ち密度15前後で疎、下層との境界は明瞭である。(Km-5a)

第3層は厚さ10cm前後でヌマガヤを構成植物とする中間泥炭、分解度H8で良、色は7.5YRで明度2~3、彩度2~3、ち密度16前後で疎、PH(H₂O) 4.5前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ40cm前後でワタスゲ、ミズゴケ、ツルコケモモ、ホロムイソゲを構成植物とする中間泥炭、分解度H2で不良、色は7.5YRで明度2~3、彩度2~3。ち密度12前後で疎、PH(H₂O) 4前後、下層との境界は明瞭である。

第5層は概ね70cm以下でミズゴケ、ツルコケモモ、ヌマガヤを構成植物とする中間泥炭、分解度はH2で不良、色は7.5YRで明度3~4、彩度4~6、PH(H₂O) 4.5前後。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 斜里郡斜里町中斜里 試坑4TP

第1層	0~15cm	腐植富む鈍黄褐(10YR 4/3)のL、弱度の細粒状構造、ち密度19~22で中、PH(H ₂ O) 6.7、調査時の湿り半湿、層界明瞭。
第2層	15~22cm	腐植欠く明黄褐(10YR 6/6)のS、浮石小礫含む、単粒状ち密度15で疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第3層	22~32cm	極暗褐(7.5YR 2/3)のヌマガヤ(ミズゴケ)よりなる中間泥炭、H8で分解良、ち密度16で疎、PH(H ₂ O) 4.5、調査時の湿り潤、層界明瞭。
第4層	32~70cm	黒褐(7.5YR 2/2)のワタスゲ(ミズゴケ、ツルコケモモ、ホロムイソゲ)の中間泥炭、H2で分解不良、ち密度12で疎、PH(H ₂ O) 4.2、調査時の湿り潤、層界明瞭。
第5層	70~	褐(7.5YR 4/6)のヌマガヤ(ミズゴケ、ツルコケモモ)の中間泥炭、H2で分解不良、PH(H ₂ O) 4.6、調査時の湿り潤。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含 量重 量%	粒 径 組 成 %				土性	現地 容積 重g	全炭 真比重 素%	全窒 素素%	炭素率	腐植 %	
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	4.2		29.8	29.2	29.7	11.3	L	101	2.42	6.88	0.50	13.8	11.4
2	22~32	11.2		—	—	—	—		54	1.46	51.80	2.33	22.2	79.1
3	32~70	12.0		—	—	—	—		93	1.47	63.63	1.17	54.4	96.3
4	70~	10.5		—	—	—	—		102	1.43	53.63	2.17	24.7	82.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.7	6.4	0.3	30.1	26.7	0.4	0.3	89	2620	8.2
2	4.5	4.1	4.8	91.7	20.3	0.6	0.2	22	2488	0.4
3	4.2	3.7	36.3	106.9	24.2	1.1	0.1	23	2620	0.5
4	4.6	4.0	25.0	112.4	14.7	0.7	0.1	13	436	0.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては斜里統があるが本統とは構成植物を異にする低位泥炭であるので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩、ヌマガヤ、ミズゴケ、ツルコケモモ、ワタスゲ等

A-4 堆積様式 水積（河成）／集積（中間泥炭）

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 733mm

D 植生及び利用状況 畑地では麦類、牧草類が栽培されているが原野が多い。

E 農業上の留意事項 排水完備、塩基の補給、深耕

F 分布 北海道斜里郡斜里町中斜里の一部

調査及び記載責任者 官 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
中斜里 - 中斜里	Uwf Utna

② 土壌区別説明

中斜里統 - 中斜里区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤 効 土	転 表 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土 土	の 土 土 土	の 風 乾	肥 定 塩	層 換	の 性 態 量	害 理 害 物 的	冠 す 水 冠 水	然 斜 為	水 風
産 土 土	の 粘 土 着 硬	水 水 潤	沃 基 状	の 性 態 量	石 苦 加 磷	質 障 害 物 的	の の 危 險	の の 傾 方	水 風
力 的 層	の 難 土 着 硬	乾 性 性 度	肥 定 塩	の 性 態 量	石 苦 加 磷	質 障 害 物 的	の の 危 險	の の 傾 方	水 風
可 能 性 厚 深	含 難 土 着 硬	乾 性 性 度	沃 基 状	の 性 態 量	石 苦 加 磷	質 障 害 物 的	の の 危 險	の の 傾 方	水 風
等 級	さ 量 易	湿 性 性 度	力 力 態	否	量 素 度	性 性	性 性	斜 斜 斜	性 性 性
	t d g p	w	f	n		i a	s e		
	1 2 1	3 1 3	1 3 3	1 3 2 2 2 1	1 1	2 1	1 - -	1 1 1	
簡 略 分 級 式 w f t n a .									

A 土壤区の特徴

この土壤区は中斜里統に属する。表土の厚さは15cm前後で中庸、有効土層1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起、碎土は容易である。

透水性小、保水性大で過湿地となつている。

保肥力大、固定力大、塩基状態不良で自然肥沃度は低い、養分では石灰多、苦土少、加里中、磷酸中で酸度は表土では弱いが下層は極強酸性を呈する。

一時的に冠水するおそれがあり、障害性はない。

B 植生及び利用状況 一部畑地として麦類、牧草類が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

まず排水を完全にすること。周辺地区が低位泥炭地なので、これと関連して排水工事を行なうことが望ましい。加里、苦土等の塩基に乏しいので、これらの肥料を増施すること。一般に作土層が浅いので30cm程度の深耕が望ましい。

D 分 布 北海道斜里郡斜里町中斜里の一部

記載責任者 官 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

3 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

土壤断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

保全対策 地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
来 運	来 運 三 井 朱 円 南 朱 円 東 秋 の 川 日 の 出 越 川 中 央 萱 野	4237.5	土壌が乾燥しやすい。 風蝕を受ける。 養肥分に不足しやすい。 心土に浮石砂礫層のある場合が多い。	風蝕防止 有機物の施用 施肥の合理化 混 層 耕
三 井 北	三 井 北	93.1	湿性を呈する。腐植層が厚い 養肥分に乏しい。	排水の完備 施肥の合理化
ウ ト ロ	岩 尾 別 ウ ト ロ	923.1	5°前後の傾斜地である。 養肥分が乏しい。 作土が浅い。	有機物の施用 施肥の合理化 深 耕
朱 円	朱 円 中 央 豊 里 越 川 朱 円	391.5	土壌が乾燥しやすい。 養肥分が不足気味である。	有機物の施用 施肥の合理化
美 咲	羅 萌 川 上 美 咲 豊 倉 朱 円 西	1502.6	湿性を呈する。 作土がやや浅い。 養肥分が不足気味である。	排水の完備 深 耕 有機物の施用 施肥の合理化
浜 小 清 水	浜 小 清 水	105.0	砂丘土壌で乾燥が著しい。 養肥分に乏しい。	有機物施用、施肥の合理化 耕種肥培法の改善
以 久 科	以 久 科	523.5	有機物が少ない。 苦土が少ない。	有機物の施用 施肥の合理化
真 鯉	真 鯉	19.0	ほぼ平坦な扇状地である。 礫多く、次層以下礫層である 養肥分が不足気味である。	施肥の合理化 中礫以上を除く
斜 里	斜 里 大 栄 中 斜 里	2126.6	泥炭土壌で排水不良。 養肥分に乏しい。	排水施設の完備 施肥の合理化

2) 保全対策地区別説明

< 来運保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
斜里郡斜里町	4237.5	来運、三井、朱円南、朱円東、秋の川、日の出、越川中央、萱野

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

心土に浮石砂礫層があるので植生に悪影響を及ぼし、かつ土壌の乾燥を助長して春季の風害を大きくしている。また火山灰を母材としているため地力が低下しやすい。一般に加里、苦土、燐酸等の養分が少ない。

② 営農の方向、その他

地力の低下しやすい土壌であるから有機物を施用し、かつ合理的な施肥を行なう必要がある。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
風蝕防止	全区 4 2 3 7.5	防風林の整備 被覆作物の栽培	指導の徹底
施肥の合理化	全区 4 2 3 7.5	加里、燐酸等の増施 苦土入肥料の使用	〃
有機物施用	来運、三井、朱円南、朱円東、秋の川、萱野 3643.2	堆厩肥、緑肥、作物残渣の施用	〃
混層耕	来運、三井、秋の川 2 2 8 0.7	5 0 ~ 6 0 cmの混層耕 堆厩肥、炭カル、燐酸資材等の施用	大型機械の導入 土改資材等の補助

<三井北保全対策区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
斜里郡斜里町	9 3.1	三井北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

火山灰の累積した土壌であるが低い平坦な台地で泥炭地に隣接しており、水の影響が強く、湿性を呈している。このため黒色の腐植層の集積が厚い、酸性は微弱で石灰含量は比較的多いが他の養分は一般に少ない。

② 営農の方向、その他

地下水位がやや高く、また保水性が大きく、湿性を呈しているので隣接する泥炭地との関連において排水の施行が急務である。また、養分不足気味であるから施肥管理に留意する必要がある。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水	三井北 9 3.1	明暗渠の完備 隣接泥炭地の工事も行なう	工事費、資材等の補助
施肥の合理化		加里、燐酸等の増施 苦土肥料の使用	指導の徹底

＜ウトロ保全対策区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
斜里郡斜里町	9 2 3.2	岩尾別、ウトロ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

日の出の奥地からウトロにかけて分布する緩波状性の高台地で土層内に石礫を混在するところもある。土壌は新期の火山灰は極めて薄層でその下層は古い火山灰（パフ状）かもしくはこれの二次堆積物とみられるもので、各養分に乏しい。

② 営農の方向、その他

加里、苦土、燐酸等に乏しいから、これらの補給に留意し、地力の維持増進に努めるべきである。また風蝕はあまり受けないが、海からの強風を強く受けるので防風林の整備も要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
深 耕	全 区 9 2 3.2	有機物、燐酸資材の施用	指導の徹底、改良資材の補助
施肥の合理化		加里、燐酸の増施 苦土入り肥料の使用	”
潮風防止		防風林の整備	”

＜朱円保全対策区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
斜里郡斜里町	3 9 1.5	朱円中央、豊里、越川、朱円

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

一般に上部は新期の火山灰で下層は古い沖積土壌で通気透水性が良く、比較的地力が高いが概して腐植少なく、養分も不足気味である。また一部に除石を要するところもある。

② 営農の方向、その他

堆厩肥等の有機物施用を行ない、加里、苦土、燐酸等の養分補給に留意し、石礫のあるところは除石することが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
有機物施用	全 区 3 9 1.5	堆厩肥、作物残渣のすきこみ	指導の徹底
施肥の合理化		加里、燐酸の増肥 苦土入り肥料の使用	”
除 石	豊里、越川、朱円 2 7 1.3	中礫以上を除く ストンピッカー等の導入	” 機械の導入費補助

<美咲 保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
斜里郡斜里町	1 5 0 2.6	羅萌、川上、美咲、豊倉、朱円西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

河川流域及び泥炭地に接し、一般的に地下水位高く湿性を呈する土壌であるが中には周辺の排水工事等により乾性になっているところもある。(川上統)。養分では加里、苦土、燐酸等に不足気味である。

② 営農の方向、その他

近年排水工事が進んでいるが今後も組織的に工事を進めることが望ましい。泥炭地に近接しているところでは土層内に泥炭が出現するところがあるので酸性改良を要しよう。加里、苦土、燐酸等に不足気味であるから施肥の場合留意すること。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水の完備	羅萌、美咲、豊倉、 朱円西 1 2 5 1.4	明暗渠の組織的工事	工事費の補助 土管、塩ビパイプ等
有機物の施用	川上、豊倉 6 4 6.8	堆厩肥、作物残渣のすき こみ	指導の徹底
施肥の合理化	羅萌、川上、豊倉 7 3 7.6	加里、燐酸の増施、苦土 入肥料の使用	”
深 耕	羅萌、美咲、朱円西 8 5 5.8	有機物の施用 土改資材の投入	”

<浜小清水保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
斜里郡斜里町	1 0 5.0	浜小清水

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

海岸に沿って分布する砂丘地で殆んど防風保安林となっており、ナラ、カンワ、イタヤ、シコロ等の樹木ササ、ハマナス、ハマエンドウ等が自生しているが一部放牧地となっている。腐植層浅く、火山灰を狭むが殆んど海砂よりなり、保水性小、透水性過良である。養分はいずれも乏しい。

② 営農の方向、その他

腐植が少ないので堆厩肥等の有機物を施用し、また保肥力に乏しいから固定肥料を使用することが望ましい。放牧地は過放牧とならないように留意する必要がある。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
有機物施用	浜小清水 105.0	堆厩肥、緑肥等	指導の徹底
施肥の合理化		加里、磷酸の増施、苦土入り肥料の使用	〃
耕種肥培法の改善		固形肥料の使用、適度の放牧	〃

<以久科保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
斜里郡斜里町	523.5	以久科

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

堆積の新しい沖積土壌で本町においてもつとも生産力の高い土壌である。腐植少なく、土性は壤土～砂壤土で、透水性よく、保水力も適度で理化学性良好である。酸度は全層中性を示し、飽和度が極めて高い。ところによつて心土に犁定盤が形成されている。

② 営農の方向、その他

有機物を施用すること。養分では苦土が少ないので苦土入り肥料を施用することが望ましい。犁底盤の形成されているところは深耕を行なう必要がある。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類
有機物施用	以久科 523.5	堆厩肥、作物残渣のすきこみ	指導の徹底
施肥の合理化		苦土入り肥料の使用	〃

<真鯉保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
斜里郡斜里町	19.0	真鯉

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

真鯉の海岸沿いに分布する低地で放牧地として利用されている。砂岩、安山 等を母材とする扇状堆土で地表より礫が多く、20cm以下から礫層となつている。塩基類には富んでいるが磷酸は少ない。

② 営農の方向、その他

現状のまま放牧地として利用するなら大きな石を除くこと。そして磷酸を増施する必要がある。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
施肥の合理化 除石	真 鯉 19.0	燐酸増施	指導の徹底
		中礫以上を除く	”

< 斜里 保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
斜里郡斜里町	2126.6	斜里、大栄、中斜里

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本町の低地に広く分布する低位泥炭土壌と中斜里市街地周辺に分布する中間泥炭土壌である。

いずれも薄層の火山灰層を数枚挟んでいる。また下層に埴土層が出現するものや、表層に沖積土を混入するものもある。強酸性を呈し、塩基、燐酸等に乏しい。

② 営農の方向、その他

一般に相当排水が進んでいるが、今後とも組織的に排水工事を行なうことが望ましい。

塩基や燐酸に乏しいから増施することが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水の完備	全 区 2126.6	組織的な排水工事	土管、埴ピパイプ等 工事費の補助
施肥の合理化		加里、苦土、燐酸の増施	指導の徹底

2) 土 壤 分 析 成 績

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 序 (層 位)	深 さ cm	理 学 性										
					風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地におけ		
					水	腐	粗	細	砂	シ	粘		容	固	
					分	植	砂	砂	合	ル	土	積			相
%	%	%	%	計	ト	%	重	容							
														g	cc
来	来 運	清里 14	1	0 ~ 16	2.7	4.7	41.7	28.9	70.7	25.1	4.1	SL	108	32	
			2	16 ~ 32	0.7	0.7	93.5	0.6	94.1	5.1	0.8	S	80	21	
			3	32 ~ 42	6.1	3.9	19.5	55.2	74.7	24.3	1.0	SL	100	29	
			4	42 ~ 77	7.2	3.0	52.8	38.8	91.6	8.3	0.1	S	98	29	
			5	77 ~ 90	9.9	2.3	31.4	53.2	84.6	8.8	0.4	S	102	27	
			6	90 ~ 102	8.0	1.0	28.7	53.8	82.5	16.9	0.5	SL	109	28	
			7	102 ~ 124	10.3	0.6	23.8	35.6	59.4	28.8	11.8	L	—	—	
	三 井	19	1	0 ~ 25	3.1	3.8	49.7	25.9	75.6	20.7	3.7	SL			
			2	29 ~ 42	7.4	8.8	21.5	34.3	55.8	39.3	4.9	L			
	朱円南	2B	1	0 ~ 25	6.9	4.0	42.6	21.2	63.8	31.3	4.9	L	101	25	
			2	25 ~ 40	10.0	3.0	20.7	23.8	44.5	44.0	11.5	L	97	21	
			3	40 ~ 55	12.2	—	19.2	20.2	39.4	42.8	17.8	CL	94	18	
	朱円東	53F	1	0 ~ 28	3.9	4.7	52.3	20.4	72.7	21.4	5.9	SL	98	24	
			2	28 ~ 47	8.3	2.2	26.3	29.2	55.5	38.6	5.9	L	107	23	
	秋の川	53G	1	0 ~ 30	4.9	4.8	42.1	22.5	64.6	28.0	7.4	L			
	日の出	83B	1	0 ~ 24	5.8	7.4	28.0	24.9	52.9	34.5	12.6	L			
			2	24 ~ 45	9.0	1.8	23.5	22.7	46.2	42.6	11.2	L			
	越 川 中 央	53C	1	0 ~ 17	5.0	5.9	50.9	24.2	75.1	19.6	5.3	SL	122	29	
			2	20 ~ 40	8.7	9.3	23.8	23.2	47.0	41.8	11.2	L	109	27	
			3	40 ~ 56	11.5	9.6	10.3	26.7	37.0	50.4	12.6	S i L	105	23	
			4	56 ~ 73	9.7	4.4	9.1	31.4	40.5	51.9	7.6	S i L	100	20	
5			73 ~ 93	6.7		13.4	29.5	42.9	48.8	8.3	S i L				
萱 野	27	1	0 ~ 17	3.7	7.5	41.3	32.7	74.0	21.9	4.1	SL				
		2	17 ~ 50	6.0	2.8	39.2	23.2	62.4	31.4	6.2	L				
	27B	1	3 ~ 19	2.8	2.8	35.6	36.8	72.4	21.9	5.7	SL	79	22		
		2	19 ~ 38	8.2	3.5	20.8	33.9	54.7	34.2	11.1	L	82	29		

る 100 cc 容中			化 学 性												
			p H		置換酸度 Y1	有 機 物			塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 ^{me/100g}			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
			H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
35	33	68	6.7	5.8	0	2.73	0.25	11	16.0	10.62	0.37	0.08	66	710	tr
29	50	79	6.8	5.9	0	0.41	0.04	—	2.2	0.66	0.22	0.03	30	988	2.1
35	36	71	6.9	5.9	0.3	2.26	0.16	14	17.6	12.09	0.30	0.07	73	1 707	tr
30	41	71	6.6	5.8	0.3	1.74	0.14	12	16.7	6.04	0.27	0.05	36	2 503	tr
41	32	73	6.5	5.6	0.3	1.33	0.13	10	19.6	3.96	0.44	0.10	20	2 350	tr
44	28	72	6.4	5.2	0.4	0.58	0.07	—	19.6	3.52	0.44	0.14	18	1 800	tr
—	—	—	6.2	4.6	1.3	0.35	0.04	—	24.3	8.35	2.21	0.40	34	1 202	tr
			6.0	5.0	0.8	3.30	0.38	8.7	19.6	8.42	0.37	0.06	43	855	4.8
			6.2	5.3	0.5	5.50	0.57	9.6	37.3	18.31	0.37	0.11	49	1 835	0.3
34	41	75	6.1	5.8	0.3	2.52	0.28	9.0	22.1	9.67	0.44	0.18	44	1 240	0.8
38	41	79	6.1	5.5	0.4	1.72	0.24	7.0	23.5	8.51	0.27	0.08	36	1 983	0.8
38	44	82	6.2	5.8	0.3	—	—	—	18.6	8.51	0.27	0.02	46	1 886	0.3
33	43	76	6.5	5.8	0.3	2.86	0.31	9.2	21.1	14.01	1.11	0.17	66	1 045	2.8
42	35	77	6.5	5.9	0.3	1.36	0.21	6.5	20.3	10.99	0.27	0.07	54	1 800	0.4
			5.9	5.1	0.5	2.91	0.41	7.2	26.7	9.89	0.27	0.30	37	1 418	1.9
			5.8	5.0	0.5	4.56	0.53	8.6	25.8	13.55	0.73	0.53	53	1 331	1.2
						1.15	0.21	5.5	18.1	4.81	0.27	0.27	27	2 014	0.2
48	23	71	6.5	6.2	0.1	3.58	0.48	7.5	28.7	21.98	0.82	0.17	76	1 045	7.9
43	30	73	6.5	5.5	0.4	5.91	0.74	8.0	41.2	23.81	0.73	0.09	58	1 800	0.3
49	28	77	6.1	5.3	0.3	6.32	0.67	9.4	44.1	17.22	0.37	0.07	39	2 205	0.1
44	36	80	6.1	5.3	0.4	2.82	0.34	8.3	27.1	6.32	0.27	0.20	23	2 104	0.4
			6.1	5.3	0.5	—	—	—	19.3	4.41	0.37	0.27	23	1 657	0.2
			6.1	5.5	0.4	5.12	0.36	14.2	21.9	12.09	0.37	0.11	55	513	5.7
			6.1	5.7	0.4	1.70	0.14	12.1	13.4	2.56	0.37	0.73	19	1 331	0.4
21	57	78	5.9	4.9	0.8	1.64	0.28	5.9	20.4	7.91	0.44	0.13	39	622	2.9
11	60	71	6.4	5.7	0.5	3.20	0.20	11.0	17.9	6.04	0.27	0.40	34	1 598	0.1

保 全 对 策 区	土 囊 区	地 点 番 号	層 序 (層 位)	深 さ cm	理 学 性									
					風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地におけ	
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 計 %	シ ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc
三 井 北	三井北	54	1	0 ~ 25	4.3	9.2	54.6	22.6	77.2	16.9	5.9	SL	114	30
			2	25 ~ 55	8.2	13.3	20.9	33.7	54.6	39.7	5.7	L	114	28
			3	55 ~ 75	2.8	—	50.4	28.7	79.1	18.4	2.5	SL	124	37
			4	75 ~ 100	6.2	9.0	13.3	26.9	40.2	46.1	13.7	SiL	110	21
			5	100 ~ 110	5.8	1.8	10.6	29.7	40.3	52.2	7.5	SiL		
ウ ト ロ	岩尾別	56B	1	0 ~ 15	4.2	7.4	42.8	19.5	62.3	27.4	10.3	L		
			2	15 ~ 40	11.3	9.5	16.8	20.0	36.8	54.1	9.1	SiL		
		74C	1	0 ~ 22	4.9	11.8	10.8	43.9	54.7	32.5	12.8	L		
	2		22 ~ 45	8.0	7.3	9.4	31.4	40.8	46.1	13.1	SiL			
	3		45 ~ 60	9.0	—	27.0	23.7	50.7	36.0	13.3	L			
	ウ ト ロ	1	56	1	0 ~ 17	6.9	8.7	14.4	24.6	39.0	42.0	19.0	CL	
2				17 ~ 35	10.0	7.5	12.6	21.9	31.5	44.7	20.8	CL		
56		1	0 ~ 20	7.2	9.7	24.6	24.3	48.9	41.4	9.7	L	125	27	
		2	20 ~ 28	8.7	10.3	17.8	21.8	39.6	47.6	12.8	SiL	121	23	
		3	28 ~ 48	13.3	6.9	18.6	24.4	43.0	45.1	11.9	SiL	117	18	
75		1	0 ~ 24	6.6	9.8	13.8	27.1	40.9	42.6	16.5	CL	126	30	
		2	24 ~ 41	7.1	3.2	8.3	16.0	24.3	47.5	28.2	SiL	160	36	
	3	41 ~ 65	6.9	—	9.3	12.6	21.9	41.6	36.5	LiC	166	37		
	4	65 ~	6.0	—	8.7	12.6	21.3	40.8	37.9	LiC	172	38		
朱 円	朱 円 中 央	53E	1	0 ~ 25	5.6	6.7	44.3	20.4	64.7	27.5	7.8	L		
			2	25 ~ 50	10.2	4.7	32.4	25.9	58.3	30.5	11.2	L		
	豊 里	14E	1	0 ~ 25	2.9	5.7	57.9	25.2	83.1	14.3	2.6	SL		
			2	25 ~ 45	5.7	4.2	17.3	56.0	73.3	23.5	3.2	SL		
	越 川	94	1	0 ~ 20	3.4	7.6	47.6	22.5	70.1	23.0	6.9	SL	124	32
			2	25 ~ 40	6.0	6.3	20.6	19.1	39.7	38.5	21.8	CL	128	30
	朱 円	95	1	0 ~ 22	3.3	6.0	30.7	35.6	66.3	20.5	13.2	SL	139	37
			2	22 ~ 40	3.2	2.6	25.2	46.7	71.9	19.5	8.6	SL	125	32

			化 学 性												
る 100 cc 容中			pH		置 換 酸 度 Y1	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基 ^{me/100g}			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
水 分 容 積 cc	空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C-N		CaO	MgO	K ₂ O			
39	31	70	6.6	6.0	0.1	5.36	0.38	14.0	30.3	22.61	0.31	0.41	75	1.045	7.2
50	22	72	6.2	5.1	0.3	7.72	0.56	13.8	51.1	24.81	0.31	0.11	49	1.918	0.6
31	32	63	6.3	5.5	0.3	—	—	—	11.3	3.57	0.27	0.05	32	826	0.4
57	22	79	6.4	5.4	0.3	5.22	0.57	9.2	45.1	28.11	4.55	0.39	62	1.541	0.3
			6.5	5.4	0.3	1.13	0.41	2.8	25.3	12.09	0.55	0.61	48	1.240	0.3
			6.0	5.0	0.6	4.48	0.48	9.3	26.1	9.71	0.37	0.25	37	1.286	0.5
			6.2	5.2	0.5	6.20	0.32	19.4	30.1	8.51	0.27	0.09	28	2.366	0.7
			5.6	4.4	1.3	6.85	0.45	15.1	26.8	5.86	0.37	0.37	22	1.418	0.2
			6.1	5.2	0.4	4.25	0.20	21.3	21.6	3.84	0.27	0.12	18	1.902	0.4
			5.9	5.7	0.3	—	—	—	15.2	1.65	1.92	0.20	11	2.090	0.1
			6.0	5.1	0.8	5.07	0.43	11.9	35.6	18.68	0.37	0.89	52	1.439	1.8
			6.3	5.4	0.4	4.83	0.32	15.1	35.1	15.11	1.11	0.62	43	1.818	0.4
56	17	73	6.0	5.1	0.5	5.61	0.46	12.1	35.8	19.23	0.27	0.35	54	1.580	0.7
62	15	77	6.4	5.4	0.4	5.96	0.48	12.5	43.4	25.55	0.27	0.15	59	2.163	0.4
67	15	82	6.2	5.5	0.5	4.01	0.23	17.6	28.7	7.14	0.27	0.07	25	2.366	0.5
49	21	70	6.1	5.1	0.3	6.10	0.52	11.7	33.3	15.11	1.92	1.62	45	1.286	1.4
52	12	64	5.9	4.6	1.5	1.99	0.16	12.4	28.8	10.99	1.46	0.17	38	1.418	0.1
50	13	63	5.6	4.3	2.8	—	—	—	25.5	12.09	1.83	0.12	47	1.121	0.8
52	10	62	5.7	4.4	1.9	—	—	—	31.7	11.35	0.73	0.17	36	1.045	0.6
			6.6	6.0	0.3	3.91	0.24	16.3	23.2	19.41	0.37	0.37	84	1.194	2.0
			6.5	5.9	0.3	2.75	0.15	18.5	17.6	9.61	0.37	0.05	55	1.935	0.1
			6.7	5.6	0.3	2.98	0.25	11.9	18.3	12.82	0.37	0.38	70	618	6.3
			6.8	5.8	0.1	2.44	0.19	13.0	22.9	16.12	0.37	0.52	70	1.331	0.5
46	22	68	5.3	4.5	4.5	4.41	0.37	12.0	27.8	8.42	0.37	0.35	30	826	9.6
49	21	70	5.4	4.3	6.3	3.88	0.42	9.2	37.3	9.61	0.27	0.37	26	1.766	0.2
44	19	63	7.4	7.0	0.3	3.61	0.29	12.4	34.1	37.63	0.27	0.63	110	797	20.2
38	30	68	7.0	5.8	0.3	1.54	0.15	10.3	26.1	22.25	0.82	0.64	85	826	3.0

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 序 (層 位)	深 さ cm	理 学 性									
					風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地におけ	
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc
美	羅 扇	91	1	0 ~ 20	3.1	9.1	43.6	32.7	76.3	18.6	5.1	SL	122	30
			2	23 ~ 45	5.3	8.1	38.2	23.3	61.5	29.0	9.5	L	128	34
			3	45 ~	2.8	—	55.7	30.8	86.5	13.1	0.4	S	122	29
	川 上	86	1	0 ~ 18	2.1	5.4	41.8	31.7	73.5	19.4	7.1	SL	110	36
			2	18 ~ 35	2.0	5.4	47.0	30.2	77.2	18.3	4.5	SL	102	36
			3	35 ~ 50	0.8	—	70.4	26.2	96.6	2.6	0.8	S	80	29
		87	1	0 ~ 20	2.4	3.9	9.7	61.5	71.2	22.2	6.6	SL	127	38
			2	20 ~ 45	2.6	3.1	7.4	43.9	51.3	44.2	4.5	L	112	28
			3	45 ~	1.2	—	13.7	74.1	87.8	10.2	2.0	LS	125	32
	美 咲	90	1	0 ~ 20	3.6	8.7	12.2	29.1	41.3	45.0	13.7	L	76	28
			2	20 ~ 40	3.2	5.7	9.5	30.5	40.0	48.2	11.8	SiL	65	23
		92	1	0 ~ 17	4.3	8.6	4.0	23.3	27.3	52.1	20.6	SiCL	114	27
			2	17 ~ 40	2.8	1.7	0.1	19.4	19.5	70.4	10.1	SiL	146	29
		100B	1	0 ~ 22	4.5		5.8	30.1	35.9	39.9	24.2	CL	132	33
			2	22 ~ 50	4.0		4.5	59.8	64.3	19.5	16.2	SCL	145	35
咲	豊 倉	99	1	0 ~ 18	5.0	7.2	32.4	13.9	46.3	40.3	13.4	L	102	27
			2	18 ~ 35	5.0	8.4	33.8	16.9	40.7	33.7	15.6	CL	125	32
			3	45 ~ 55	8.9	30.3	3.5	26.8	30.3	36.0	33.7	LiC	97	13
	99B	1	0 ~ 20	4.5	5.6	6.4	28.1	34.5	39.5	26.0	LiC	107	27	
		2	20 ~ 50	5.1	4.0	2.8	26.0	28.8	48.4	22.9	SiCL	123	26	
	朱 円 西	97C	1	0 ~ 20	4.3	8.3	33.1	23.7	56.8	25.5	17.7	CL		
2			20 ~ 35	4.9	1.7	13.8	45.7	59.5	26.0	14.5	L			
Lp 8		1	0 ~ 20	4.4	18.2	37.0	28.1	65.1	20.2	14.7	SL	115	30	
		2	20 ~ 35	3.6	2.4	2.5	52.9	55.4	27.1	17.5	CL	150	35	

			化 学 性												
る 100 cc 容中			p H		置換酸度 Y1	有 機 物			塩基置換容量 m e/ 100 g	置換性塩基 ^{m e/} 100 g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 100 g
水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
51	19	70	5.9	4.9	6.8	5.46	0.43	12.7	19.6	8.79	0.37	0.08	45	826	1.5
46	20	66	6.1	5.0	2.9	4.96	0.34	14.6	26.2	6.59	0.27	0.05	25	1 657	t r
39	32	71	6.2	5.4	0.4	—	—	—	8.4	2.21	0.22	0.05	26	884	0.1
21	43	64	6.1	5.4	0.1	3.21	0.27	11.9	18.3	10.99	0.55	0.58	60	444	12.2
12	52	64	6.1	5.5	0.3	3.21	0.29	11.1	14.1	13.92	0.37	0.72	99	479	17.2
8	63	71	6.3	5.5	0.3	—	—	—	5.7	3.08	0.22	0.16	54	297	0.8
30	32	62	6.7	5.9	0.3	2.30	0.22	10.5	18.3	14.28	0.37	0.25	78	588	6.8
38	34	72	6.5	5.5	0.3	1.84	0.17	10.8	16.0	12.82	0.37	0.07	80	939	0.7
25	43	68	6.3	5.0	0.3	—	—	—	7.1	2.75	0.27	0.02	39	372	1.2
10	62	72	6.5	6.1	0.4	5.03	0.46	10.8	32.4	28.39	0.37	0.51	88	738	26.6
11	66	77	6.4	5.8	0.3	3.33	0.27	12.5	22.9	17.22	0.37	0.32	75	2 201	4.6
48	25	73	6.5	6.1	0.3	4.99	0.42	11.9	32.4	23.81	2.56	0.42	73	884	7.7
64	7	71	6.1	4.9	0.4	1.02	0.15	6.8	18.1	8.06	0.37	0.05	45	768	0.7
45	22	67	5.4	4.2	3.5				35.1	20.15	0.37	0.37	57	768	15.2
51	14	65	5.4	4.0	8.0				27.1	13.92	0.55	0.11	51	939	1.0
31	42	73	6.3	5.6	0.3	4.18	0.36	11.5	29.7	18.13	0.55	0.29	61	1 096	3.3
40	28	68	6.2	5.5	0.3	4.87	0.37	13.3	28.7	17.85	0.55	0.26	62	1 045	2.5
69	18	87	4.7	4.2	17.5	19.31	1.51	12.8	65.7	6.59	0.55	0.25	10	1 096	0.4
35	38	73	6.1	5.1	0.5	3.14	0.31	10.1	37.0	25.27	1.11	0.53	68	992	5.8
48	26	74	5.9	4.6	1.3	2.42	0.01	24.2	36.9	21.61	1.83	0.25	59	1 145	2.6
			6.4	5.5	0.3	5.01	0.43	11.2	40.6	30.15	2.83	0.39	74	1 818	10.3
			6.8	5.3	0.3	1.05	0.10	10.5	33.8	23.35	2.74	0.68	69	992	2.0
46	24	70	5.5	5.2	3.5	11.08	0.13		37.1	13.51	0.31	0.21	36	436	4.4
56	9	65	4.9	3.8	19.8	1.45	0.15	9.7	28.4	10.99	0.73	0.15	39	787	0.7

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 序 (層 位)	深 さ cm	理 学 性											
					風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における			
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	真 比 重	固 相 容 積 cc	
浜小 清水	浜小 清水	37	1	5 ~ 14	1.8	5.5	73.4	16.2	89.6	6.7	3.7	LS	97		29	
			2	14 ~ 30	1.5	2.6	85.2	10.6	95.8	0.7	3.6	S	135		40	
以 久 科	以久科		1	0 ~ 22	3.2	2.6	31.1	39.0	70.1	16.3	13.6	SL	116	35	23	
			2	28 ~ 48	3.6	3.1	9.5	68.3	77.8	14.2	8.0	SL	113	33	24	
			3	48 ~ 68	4.1	—	1.4	44.5	45.9	39.4	14.7	L	120	29	42	
		97B	1	0 ~ 17	4.2	3.0	1.7	57.3	59.0	27.1	13.9	L	132		34	
			2	17 ~ 35	4.3	2.2	0.1	50.5	50.6	34.9	14.5	L	127		27	
			3	35 ~ 60	3.4	—	43.2	38.9	82.1	13.0	4.9	SL	112		29	
真經	真經	200	1	0 ~ 20	4.2	8.1	12.6	19.9	32.5	33.6	33.9	LiC				
斜 里	斜里	100	1	0 ~ 27	4.1	12.8	31.0	16.4	47.4	33.1	19.5	CL	136		32	
			2	37 ~ 55	13.2	70.5								101		11
		Lp	1	0 ~ 13	8.1	38.7	28.0	24.6	52.6	33.9	13.7	L	80		18	
			2	13 ~ 30	11.0	86.9								90		11
			3	33 ~ 43	8.9	1.9	89.7	3.9	93.6	4.3	2.1	S	105		26	
			4	43 ~ 70	9.6	59.3								86		8
		Lp2	1	7 ~ 12	5.5	34.1										
		Lp7	1	0 ~ 25	7.5	6.9	9.0	37.2	46.2	38.9	14.9	L	94		8	
			2	25 ~ 63	10.6	80.8								63		9
		大栄	99D	1	0 ~ 20	5.7	25.8	16.1	35.1	51.2	34.6	14.2	L			
				2	20 ~ 37	7.5	34.4									
		中斜里	TP	1	0 ~ 15	4.2	11.4	29.8	29.2	59.0	29.7	11.3	L	101		28
2	22 ~ 32			11.2	79.1								54		12	
3	32 ~ 70			12.0	96.3								93		9	
4	70 ~			10.5	82.6								102		7	

			化 学 性												
100 cc 容中			p H		置 換 酸 度 Y1	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100 g	置換性塩基 ^{me/100g}			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100 g
水 分 容 積 cc	空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
10	61	71	5.5	4.3	4.0	3.25	0.16	20.3	17.9	4.12	0.27	0.12	23	370	2.7
8	52	60	5.9	4.7	1.5	1.52	0.07	21.7	8.2	1.76	0.44	0.04	22	444	2.2
42		77	7.3	6.4	0.1	1.51	0.06	26.0	26.5	24.45	0.27	0.71	92	768	15.1
43		76	7.3	6.1	0.1	1.86	0.09	20.7	25.5	23.07	0.27	0.72	90	826	4.3
29		58	7.1	5.9	0.3	—			31.1	26.01	1.83	0.36	83	992	3.8
41	25	66	6.4	5.0	0.5	1.84	0.15	12.3	31.4	21.06	3.48	0.27	67	992	9.0
54	19	73	6.4	4.9	0.4	1.35	0.14	9.6	30.7	21.24	1.83	0.18	69	768	4.1
32	39	71	6.5	5.2	0.6	—	—	—	21.3	11.81	1.11	0.13	55	884	2.4
			5.9	5.0	0.5	4.90	0.49	10.0	33.3	20.05	6.04	0.39	60	645	1.0
61	7	68	7.4	6.9	0.6	7.43	0.66	11.3	37.8	41.15	0.31	0.31	109	1935	11.0
84	5	89	5.3	4.6	1.3	47.23	2.95	16.0	100.0	33.52	0.51	0.12	34	939	0.3
43	39	82	5.9	5.5	0.5	24.48	1.11	15.2	62.1	50.99	0.37	0.18	82	768	9.9
73	16	89	4.6	4.5	3.0	56.74	2.13	26.7	96.7	32.97	0.73	0.27	34	876	0.5
35	39	74	5.3	4.5	2.5	1.20	0.09	13.3	5.1	0.66	0.22	0.04	13	40	2.6
72	20	92	4.2	3.9	26.0	38.16	2.45	15.6	88.9	12.45	0.73	0.22	14	1835	0.4
			4.3	4.8	19.3	20.95	1.48	14.2	51.1	2.75	0.55	0.20	5	372	0.7
58	34	92	4.5	3.9	14.0	4.32	1.85	23.4	66.2	19.78	0.55	0.17	30	1744	15.3
49	42	91	3.0	3.4	48.0	52.58	2.44	21.6	99.0	12.09	1.11	0.15	12	1312	1.7
			5.1	4.8	0.9	15.90	1.19	13.4	58.4	28.57	0.44	0.12	49	2452	2.5
			5.2	4.7	3.1	21.62	1.32	16.4	80.4	37.91	0.55	0.05	47	580	0.8
33	39	72	6.7	6.4	0.3	6.88	0.50	13.8	30.1	26.74	0.37	0.31	89	2620	8.2
77	11	88	4.5	4.1	4.8	51.80	2.33	22.2	91.7	20.33	0.55	0.22	22	2488	0.4
81	10	91	4.2	3.7	36.3	63.63	1.17	54.4	106.9	24.18	1.11	0.10	23	2620	0.5
91	2	93	4.6	4.0	25.0	53.63	2.17	24.7	112.4	14.65	0.73	0.03	13	436	0.6